

法政大學講義録

山崎, 覺次郎 / 谷野, 格 / 鈴木, 英太郎 / 中村, 進午 / 中
村, 進午 / 秋山, 雅之介 / 清水, 澄

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

57

(発行年 / Year)

1903-11-01



(明治三十六年十一月十二日第三種郵便物認可)
每月九角 二日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

三十七年度

明治三十六年十一月一日發行

第一學年ノ三

法政大學講義録

第七號



法政大學發行

第一學年第三號目次

法學通論	(自一三)	法學博士 中村 進 午
憲法	(自二八)	法學士 清水 澄
民法總則	(自一七) 至第六章(自二四)	法學士 鈴木英太郎
刑法總論	(自一七)	法學士 谷 野 格
國際公法(平時)	(自一七)	法學博士 中村 進 午
國際公法(戰時)	(自五三)	法學士 秋山雅之介
經濟學	(自三七)	法學士 山崎覺次郎

雜報
 ○民法第六十九條ノ適用○民法第二百七十條ニ所謂「耕作」ノ意義○間接訴權ノ性質○討論會

090
 1904
 1-1-3

大別シテ二種ヲ爲ス。トテ得即チ普通命令及ヒ緊急命令是ナリ。普通命令ハ更ニ之ヲ細別シテ執行命令及ヒ單獨命令ノ二者トス。執行命令トハ法律ヲ執行センカ爲メニ發スル所ノ命令ニシテ單獨命令トハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ又ハ臣民ノ幸福ヲ増進センカ爲メノ命令ナリ。此二箇ノ命令ハ天皇自ラ發セラハルコトアリ又ハ天皇ガ機關ヲシテ發セシムルコトアリ。天皇自ラ發セラハルモノヲ勅令ト謂ヒ總理大臣ノ發スルモノヲ閣令ト謂ヒ各省大臣ノ發スルモノヲ省令ト謂ヒ臺灣總督府ノ發スルモノヲ臺灣總督府令ト謂ヒ府縣知事ノ發スルモノヲ府縣令ト謂ヒ警視總監ノ發スルモノヲ警察令ト謂フ。

次ニ緊急命令トハ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ヘンカ爲メニ發スル勅令ニシテ其目的ハ公共ノ安寧ヲ保持スルハ其災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ應ギントシテ在リ故ニ緊急命令ハ元來法律トシテ出スルモノナラズ實質ヲ有スルモノニ付テ急速ノ必要ヲ充タシカ爲メニ發スル命令ニ因テ隨テ次ノ議會ニ之ヲ提出スヘク議會ガ若シ之ヲ承諾セザルトキハ政府ハ將來ニ於テ效力ヲ失フコトヲ公布セザルヘカラス。憲法第八條參照此ノ如ク緊急命令ハ法律ト衝突シ

ラ法律ニ勝ルコトヲ得ヘシト雖モ普通命令即チ執行命令及ヒ單獨命令ハ之ニ依リテ法律ヲ變更廢止スルコトヲ得ス故ニ普通命令ハ唯普通命令ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ルニ止マルノミ命令制定ノ手續ハ内閣ニ於テ案ヲ作ルカ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ之ヲ内閣ニ提出シ内閣ニ於テ之ヲ議決シ總理大臣ヨリ之ヲ上奏シ天皇ノ裁可ヲ得テ始テ命令タルノ效力ヲ有スルモノナルコト公文式第二條ノ規定スル所ナリ

第二款 自治體條例ノ制定

自治體ハ自治體及ヒ自治體內ノ箇人ノ權利義務ニ關シ廣義ノ法律ヲ發スルコトヲ得之ヲ名ケテ自治體條例ト謂フ自治體條例制定ノ手續ハ市會又ハ町村會ノ議決ヲ經テ內務大臣ノ許可ヲ得ルニ在リ

第四章 法律ノ公布

前述シタル如ク法律ハ裁可ニ由リテ法律タルノ效力ヲ生スルモノナリ故ニ公

布ハ單ニ臣民ニ對シテ遵奉ノ義務ヲ負ハシムル時期ヲ示シ又ハ官吏ニ對シ之ヲ執行セシムルノ時期ヲ示スモノナリ獨逸憲法ニ於テハ法律ハ公布ニ由リテ拘束力ヲ生ストノ規定アルカ故ニ我國ノ憲法トハ全ク異ナリタル主義ヲ採用セルモノナリ英國ニ於テハ法律ハ公布ヲ要セスシテ法律タルノ效力ヲ生ストセリ是レ亦我國ノ憲法ト異ナル所ナリ
法律ノ公布ハ天皇ノ命ニ從ヒテ之ヲ爲スモノナリ(憲法第六條參照)公布セラレタル法律ハ何時ヨリ執行セラレヘキヤニ付テハ明治三十一年七月法律第十號法律第一條ニ規定スル所ニシテ即チ左ノ如シ
法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス
臺灣北海道沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

右ノ規定ニ依リ法律ハ一般ニ公布ノ日ヨリ滿二十日ヲ經テ實際ニ行ハルルモノナリ今我國明治ノ初年ヨリ今日ニ至ルマテノ法律施行時期ニ關スル沿革ヲ

舉タレハ左ノ如シ、
一 明治六年二月第六十三號太政官達、自今布告御發令、每人民熟知、爲メ

凡ソ三十日間便宜ノ地ニ於テ揭示セシメ候事

二 明治六年第二百十三號達、到達ノ上三十日揭示ノ後ハ其管下一般ニ之ヲ

知リ得タルモノト看做ス

三 明治七年第四十八號達、諸布告到達日限、翌日ヨリ騰寫日數二十日ヲ除

キ其翌日ヨリ三十日ヲ經過スルトキハ一般ノ人民之ヲ知リ得タルモノト

看做シ候事、右日數中ニ人民周知シ候様各地方便宜ノ方法ヲ設ケ施行致ス

四 明治十六年第十四號達、是レ單ニ官報到達日數ヲ規定シタルモノナリ

五 明治十九年勅令第一號公文式第十條、凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ

官報各府縣廳到達日數後七日ヲ以テ施行ノ期限トス、但官報到達日數ハ明

治十六年五月二十六日第十四號ノ布達ニ依ル

六 明治二十三年十月六日法例第一條、法律ハ公布アリタル日ヨリ滿二十日

後ハ之ヲ遵守ス可キモノトス、但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在

法律ヲ如何ナル國ノ文字ニ依リテ發布スヘキヤハ各國各特別ナリ、我國ニ於テ

ハ此種ノ問題ノ起ルコト殆ト之ナシト雖モ外國ニシテ各地言語ヲ異ニスルコ

トアレハ數箇ノ語ヲ用ヒテ法律ヲ公布スルコト稀ナリト爲サス例ヘハ瑞西澳

太利ノ如キハ即チ是ナリ、國民ハ法律ヲ知ラザリシトノ理由ヲ以テ法律ノ遵奉

ヲ肯セサルノ抗辯ヲ爲スコト能ハス、此原則ヲ名ケテ「法ノ不識ハ許サス」ト謂フ

何トナレハ或人因果シテ發布セラレタル法律ヲ知リタリヤ否ヤハ到底之ヲ證

明スルコト能ハサレハナリ、我國ニ於テハ法律ニハ公布アルノミナリト雖モ佛

白等ニ於テハ法律ノ頒布ト公布トノ間ニ嚴然タル區別ヲ爲セリ、頒布トハ法律

ノ存在スルコトヲ明カニシ且之カ執行ヲ命スル行爲ニシテ公布トハ之ヲ人民

ニ告知スル方法ナリ、即チ法律カ執行力ヲ生スル時ト遵奉ノ義務ヲ生スル時ト

ヲ區別シタルモノナリト雖モ此區別ハ實益ナキカ故ニ多數國家ノ採用セサル

所ナリ、今日ニ於テハ法律ハ悉ク之ヲ公布スルモノナリト雖モ孰レノ國孰レノ

時代ニ於テモ之ヲ公布シタルモノニ非ス例ハ希臘ノ法律ハ「ダイヲニシヤス」ノ時ニ至リテ始メテ公布セラレ羅馬ノ法律ハ十二銅律ノ時ニ至リテ始メテ公布セラレタリ我國ニ於テモ聖德太子ノ憲法德川時代ノ百箇條ノ如キハ皆之ヲ公布シタルモノニ非ス例ハハ百箇條ノ與書ニハ右ノ趣キ上聞ニ達シ相定メ候其係リ役人ノ外他見アルヘカラサルモノナリ云云トアリ此ノ如ク法律ヲ公布スルコトナカリシハ法律適用ノ便ヲ保タンカ爲メナリ古ニ於テハ法律不公布ノ重ナル原因ハ恐クハ立法者ト人民トノ知識カ甚シク懸隔シタリシカ故ナルヘシ然ルニ因襲ノ久シキ人民ノ知識カ進步スルニ至リテモ立法者ハ法律ヲ公布スルコトヲ好マス行政官モ亦法律ヲ公布セサルヲ以テ便宜ナリト爲シタリ故ニ此時代ニ於テハ法律ハ人民ヲ統治センカ爲メニ單ニ官吏ニ對シテ發シタル訓令ニ過キサリシナリ世ノ漸ク進步スルニ隨ヒ人民ハ法律ノ公布ナクンハ權利義務ノ存スル所ヲ確ムルコト能ハサリシヲ以テ國家ニ對シ法律ノ公布ヲ強請セリ法律ノ公布ナキトキハ獨リ人民ノ權利義務カ安固ナラサルノミナラス統治者カ權力ヲ恣ニスル恐アリ又人民カ卑屈ニ流ルルノ弊アリ爲メニ國家

ノ發達ヲ妨クルコト少シト爲サス
以上述アルカ如ク法律ハ古ニ在リテハ多ク之ヲ公布セサルヲ例トシタレトモ主權者カ之ヲ公布スルヲ却テ便益ナリト思考スル場合ニ於テハ故ラニ之ヲ公布シタルコトアリ法律ヲ公布スル方法ハ時代ニ依リ又國ニ依リテ同一ナラス今古來發達シタル公布ノ方法ヲ舉クルコト左ノ如シ
第一 朗讀公布法
古ニ於テハ國民ノ知識極メテ幼稚ニシテ立法者カ制定シタル法律ヲ國民ノ解讀スルコト能ハサリシヲ以テ國民ヲ集メテ法文ヲ讀聞スノ習アリタリ且讀聞セタル法律ヲ永ク記憶セシメンカ爲メニ法文ニ韻ヲ蹈ミタルモノ印度暹羅等ノ法律ニ於テ屢見ル所ナリ此朗讀ハ成ルヘク人民ノ多數集合スル場所例ヘハ神社寺院市場劇場等ニ於テ之ヲ爲スヲ例トセリ又此等ノ場所ニ於テセサルモ鳴物ヲ鳴ラシ多數ノ國民ヲ集メ法文ヲ讀聞セタルノ例極メテ多シ
第二 登錄法
登錄法ハ法文ヲ讀聞セタルノ例極メテ多シ
登錄法トハ一定ノ場所ニ法文ヲ備ヘ置キテ人民ノ來リテ觀覽ヲ望ム者ニ之ヲ

示ス方法ナリ此方法ハ人民カ文字ヲ解スルニ至リテ始メテ生スルモノナラ然レトモ此方法ハ故ラニ或場所ニ赴キテ特ニ法文ヲ讀ムニ非サレハ知ルコト能ハサルモノナルヲ以テ極メテ迂遠ノ方法ナリ

第三 揭示法 揭示法ハ法律ヲ一定ノ場所ニ法文ヲ揭示スルナリ揭示法ハ一般ノ法律ニ付テモ多クノ便宜アリト雖モ殊ニ或特別ノ場合ニ特別ノ事柄ニ付テ之ヲ爲スノ必要アリ例ヘハ銃獵ヲ禁セントスル場所ニ銃獵禁制ノ揭示ヲ爲スカ如ク通行ヲ禁セントスル場所ニ往來止ノ揭示ヲ爲スカ如シ我國ニ於テハ明治七年第八號ノ達ニ依リテ一般ノ法律ヲ揭示スルノ制ハ廢セラレタレトモ尙ホ特別ノ事項ニ付キ特別ノ場所ニ法律ヲ揭示スルコトハ今日ニ於テ盛ニ行ハレツツアリ

第四 傳達公布法 傳達公布法ハ法律ヲ先ツ官廳ヨリ或家ニ送リ順次ニ之ヲ他ノ家ニ送ラシムル方法ナリ此方法ハ迂遠ナルカ故ニ之ニ次テ左ノ方法起レリ

- (一) 君主國 君主國ニ於テハ普通ノ法律ノ發案權ハ君主ノミナラス議會若クハ兩議院ニ屬スルヲ通常ト爲セトモ憲法改正案ノ發案ニ付テハ多クハ之ヲ君主ニ專屬セシム又君主ニ專屬セシメサル國ニ於テモ議院ヨリ憲法ノ改正ヲ發案セントスルコトキハ其事項ニ於テ制限セラルルヲ常トセリ例ヘハ「バイエルン」ニ於テハ臣民ノ權利義務議會ノ權限及ヒ司法權ノ行使ニ限り議會ヨリ之ニ關スル憲法改正案ヲ提出スルコトヲ得ルモノトセルカ如キ是ナリ
- (二) 民主國 民主國タル佛蘭西及ヒ北米合衆國ノ如キ國ニ在リテハ憲法改正ノ發案權ハ孰レニ屬スルヤト云フニ北米合衆國ニ於テハ特ニ憲法改正會ヲ召集シ其會ニ於テ發案スヘキモノト定メ佛國ニ於テハ上下兩院ニ於テ憲法改正ノ必要ヲ議決シタル後國民議會ニ向テ發案スヘキモノト定メタリ又瑞西ニ於テハ憲法改正ヲ發案スルニ付キ上下兩院ノ議一致セサルコトキハ五萬人以上ノ國民ノ同意アルニ非サレハ改正ノ發案ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ
- 第二 憲法改正ノ議決ノ手續 憲法改正ノ議決ハ各國ノ憲法ニ異ナルモノトモ其機關則チ國民ノ議決ニ付キタルモノトモ其手續則チ各國ノ憲法ニ異ナルモノトモ

- (イ) 全ク特別機關ノ議決ニ付スルモノ 北米合衆國ノ如キ佛國ノ如キハ其例ナリ即チ北米合衆國ニ於テハ憲法改正案ヲ議スル爲メ特別ノ議會ヲ召集シ又佛國ニ於テハ上下兩院ノ議員ヲ合シテ國民議會ヲ組織シ之ヲシテ憲法改正案ヲ議決セシムルモノトセリ
- (ロ) 議決機關ノ外國民ノ議ニ付スルモノ 瑞西ノ如キハ其例ナリ即チ同國ニ於テハ憲法改正案ヲ議スルトキハ議決機關ノ議ヲ經ルノ外國民ノ同意ヲ求メサルヘカラサルナリ
- (ハ) 新議會ノ議ニ付スルモノ 白耳義國ニ於テハ憲法改正案ヲ議セントスルトキハ一旦議會ヲ解散シ更ニ新議會ヲ召集シテ改正案ヲ其議ニ付スルモノトセリ
- (ニ) 通常ノ立法機關ノ議ニ付スルモノ 憲法改正案ヲ通常ノ立法機關ノ議ニ付スル國ニ於テハ次ニ述ブレカ如キ特別ナル手續ヲ必要トスルモノナリ
- (二) 議決 憲法改正案ノ議決ニ付テハ普通ノ法律案ヲ議決スルト異ナリ特別ニ多數ノ出席ト同意トヲ要スルヲ以テ常トセリ

- (イ) 四分ノ三以上ノ議員ノ出席ト其出席議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要スルモノ 索通バイエルンノ如キ其例ナリ
- (ロ) 三分ノ二以上ノ議員ノ出席ト其出席議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要スルモノ 白耳義及ヒ我國ノ如キ其例ナリ
- (ハ) 議事ヲ開クノ定員數ニ付テハ普通ノ法律案ヲ議スルト同一ナルモ之ヲ議決スルニ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ要スルモノ 例ヘハ奧太利バーデン「ウエルゲンベルヒ」等ノ如シ
- (ニ) 議事ヲ開クノ定員數ニ付テハ普通ノ法律案ヲ議スルト同一ナルモ之ヲ議決スルニ出席議員四分ノ三以上ノ同意ヲ要スルモノ 例ヘハ「ハンブルヒ」「ブレメン」等ノ如シ
- (ホ) 獨逸ニ於テハ聯邦議會ニ於テ五十八票ノ中十四票ノ反對アルトキハ憲法ノ改正ヲ爲スコトヲ得サルナリ
- (三) 議決ノ回數 憲法改正案ノ議決ニ限リ二回若クハ三回ノ議決ヲ必要トスルモノアリ 普漏西ニ於テハ第一回ノ議決ヲ爲シタル後二十日ヲ隔テテ更ニ

第二回ノ議決ヲ要スルモノトシ、バイエルンニ於テハ三回ノ議決ヲ要シ其各回

ノ議決ノ間ニハ八日間ヲ隔テサルヘカラストセリ。

第三 改正ノ時期

- (一) 攝政ヲ置ク間ハ絕對的又ハ相對的ニ憲法ヲ改正スルコトヲ得スト定ムル國多シ我國ノ如キハ絕對的ニ禁止シタル例ニシテ索逕ノ如キハ相對的ニ禁止セル例ナリ即チ索逕ニ於テハ攝政在任中皇族會議ノ議ヲ經ルニ非サレハ憲法改正ヲ爲スコトヲ得ストセリ。
- (二) 憲法改正後或年限間再ヒ其改正ヲ爲スコトヲ禁止セル國アリ葡萄牙ニ於テハ一タヒ憲法ヲ改正シタルトキハ四箇年ヲ經過スルニ非サレハ更ニ改正スルコトヲ得サルモノトセリ。
- (三) 議會ノ發案ニ依リテ憲法ヲ改正シタルトキハ十二年間ハ議會ハ更ニ憲法ノ改正案ヲ提出スルコトヲ得サル國アリ。

第七節 憲法ノ解釋權

憲法ノ解釋權ニ付テハ特別ノ機關ヲ有スル國アリ例ハ獨逸聯邦中ノ索逕及ヒウニルデンベルヒ等ノ如シ索逕憲法第五百三條ニ曰ク憲法中或條項ノ解釋ニ付キ疑ヲ生シ政府ト議會トノ間ニ於テ協議上之ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ其解釋ヲ求ムルカ爲メニ政府又ハ議會ハ國法院ニ訴フルコトヲ得而シテ國法院ノ憲法解釋ニ關スル裁定ハ確定不動ノモノナリト今其國法院ナルモノノ組織ヲ觀ルニ左ノ者ヨリ成立スルモノナリ

一 勅選ノ判事六名

二 貴衆兩院ヨリ選出シタル六名ノ議員但各院三名ヲ選舉スルモノナリ又白耳義及ヒ伊太利ニ於テハ憲法解釋ノ爲メ特別ノ機關ヲ設ケス憲法解釋權ハ立法權ニ屬スルモノト爲シタリ我國ニ於テハ憲法ノ解釋ニ付キ何等ノ明文ナキニ由リ憲法ヲ制定シタル君主ニ屬スルモノト解セサルヲ得サルナリ或ハ國務大臣又ハ裁判所等ハ各法令ヲ適用スルコトヲ職務ト爲スモノナルニ由リ其職務ノ執行上憲法ヲ解釋スルノ必要アリ故ニ憲法ヲ解釋スルハ權ハ亦此等ノ機關ニモ屬スルモノナリト唱フル者アレトモ本節ニ於テ述ヘント欲スル解

釋權ナルモノハ憲法ニ關スル最高ノ解釋權ヲ指スモノナリ縱令國務大臣及ヒ裁判所ニ於テ憲法ヲ解釋スルコトヲ得トスルモ其解釋ハ君主ノ解釋ニ對シテ效力ナキモノナリ即チ君主ノ解釋ト國務大臣裁判所等ノ機關ノ解釋ト異ナルトキハ君主ノ解釋ニ讓ラサルヘカラサルモノナリ但裁判所ニ付テハ一ノ注意スヘキコトアリ裁判所ハ憲法第五十七條ニ依リ君主ノ名ニ於テ司法權ヲ行フモノナルニ由リ裁判所ノ判決確定シタルトキハ君主ト雖モ之ヲ動かスコトヲ得サルモノナリ縱令其判決ニシテ憲法ニ違反スルコトアルモ之ヲ取消スコトヲ得ス唯君主ハ裁判官ノ憲法ニ對スル解釋ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ懲戒ニ付スルコトヲ得ルニ止マルナリ

第八節 憲法ノ形式的效力

形式的憲法ヲ有スル國ニ於テ其憲法ト普通ノ法律トヲ區別スルノ要點ハ改正ノ手續ト形式的效力ノ差異トニ在リ而シテ改正ノ手續ニ付テハ既ニ述ヘタルニ由リ茲ニハ第二ノ區別ノ要點タル形式的憲法ト普通ノ法律トノ間ニ存スル

形式的效力ノ差異ヲ述ヘント欲スルナリ形式的效力ノ差異トハ憲法ヲ以テ普通ノ法律ヲ變更スルコトヲ得ルモ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得サルコトヲ謂フ即チ兩者間ニ效力上ノ優劣存スルヲ謂フナリ之ニ關シテハ憲法上特別ノ明文ヲ有セスト雖モ憲法ヲ以テ法律ヲ變更シ得ルハ憲法ハ統治作用ノ根本ヲ規定セタルモノナリトノ性質ヨリ來ルモノニシテ普通ノ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得サルハ憲法ヲ改正スルノ手續ト普通ノ法律ヲ改正スルノ手續トヲ異ニスルヨリ推定シ得ルモノナリ何トナレハ若シ普通ノ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得ルモノトセハ特別ニ其改正ノ手續ヲ兩者ノ間ニ異ニスルノ理由ヲ滅却セシムルモノナレハナリ或ハ憲法改正案ハ法律案ナリト唱ヘ總テ法律案ト記載シタル文字ノ中ニハ憲法改正案ヲモ包含シ又法律案ニ關スル規定ニ付テハ總テ憲法改正案ニ之ヲ適用スルコトヲ得ルモノナリト唱フル者アリ其理由ハ憲法第五條第六條及ヒ第三十七條等ニ立法權法律ノ裁可及ヒ法律ノ協賛等ニ付キ規定アリト雖モ憲法ヲ改正スルノ權憲法改正案ヲ裁可スルコト憲法改正案ニ付キ議會ノ協賛ヲ經ルコト等ニ付キ特別ノ明文ナキニ

由リ憲法改正案ハ法律案ナリト解セサルヲ得スト云フニ在リ然レトモ此說ハ誤レルモノニシテ憲法ト法律トハ憲法上異ナルコト勿論ナルニ由リ憲法改正案モ法律案ノ中ニ包含セラレサルコト當然ナリ又憲法中ニ憲法改正權憲法改正案ニ對スル裁可等ニ付キ特別ノ明文ナキ所以ハ憲法自身ノ事ニ關スレハナリ併シ改正案ヲ議會ノ議ニ付スルコトハ特ニ必要ト爲サレタルニ由リ憲法第七十三條ニ於テ別ニ之ヲ規定シタルモノナリ然ルニ憲法第七十三條ハ憲法ノ本文ニ非スシテ憲法ノ補則ナリ是レ最モ注意スヘキ點ニシテ憲法中ニ憲法自身ノ事ヲ規定スルコトヲ避ケタルモノナルコトヲ知ルヘキナリ故ニ前論者ノ舉證シタル三點ニ付キ憲法中ニ明文ナキモ憲法改正案ヲ法律案ト解釋スヘキノ理由ト爲ラサルナリ隨テ法律案ニ關スル規定ヲ直チニ憲法改正案ニ適用スヘキモノニ非サルナリ例ヘハ法律案ハ議會ニ於テ之ヲ修正スルモ憲法改正案ハ議會ニ於テ之ニ對スル可否ノ意見ヲ表スルコトヲ得ルニ止マリ之ヲ修正スルコトヲ得サルカ如シ又憲法改正案トシテ議會ニ發案セラレタル場合ニ於テハ縱令三分ノ二以上ノ議員ノ出席及三分ノ二以上ノ同意ヲ以テスルモ法律

如キ種種ノ方式ヲ要セリ後ニ於テハ羅馬ニ於テモ法律行爲ヲ爲スニ付キ或場合ニ於テハ方式ヲ要セスト爲セルモ原則トシテハ常ニ一定ノ方式ヲ要セリ近世ニ至リテハ全ク羅馬法ト異ナリ法律行爲ハ方式ヲ要セサルヲ原則トス我民法ニ於テモ此近世ノ立法例ニ倣ヒ法律行爲ヲ爲スニハ方式ヲ要セサルヲ原則ト爲セリ唯例外ノ場合ニ於テ一定ノ方式ヲ要スルノミ故ニ我民法上ノ解釋トシテハ法律カ明文ヲ以テ除外例ヲ示ササル限ハ常ニ一定ノ方式ヲ要セサルモノト謂フコトヲ得ヘシ

第三節 法律行爲ノ有效條件

法律行爲カ有效ニ成立スルニハ一定ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス若シ其條件ヲ具備セサルトキハ法律行爲ハ或ハ無効ト爲リ或ハ取消シ得ヘキモノト爲ル而シテ法律行爲ノ無効及ヒ取消ニ付テハ後ニ説明スヘシ

法律行爲ノ有效條件ハ之ヲ左ノ三ニ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 意思表示アルコトヲ要ス

法律行為トハ私法上ノ效力ヲ生セシムルコトヲ目的トスル意思表示ナルカ故ニ其法律行為カ有效ニ成立スルニハ先ツ意思表示ナカルヘカラサルハ勿論ナリ而シテ其意思表示トハ如何ナルモノナリヤニ付テハ既に法律行為ノ觀念ヲ述フルニ當リ之ヲ説明セリ尙ホ其詳細ハ之ヲ次節ニ説明スヘシ

第二 當事者カ行為能力ヲ有スルコトヲ要ス
法律上各人ノ意思表示ハ皆悉ク同一ノ效力ヲ有スルモノニ非ス法律上行爲能力ヲ有スル者ノ意思表示ト之ヲ有セサル者ノ意思表示トハ其效力異ナリ而シテ法律行為カ有效ニ成立スルニハ其行為ノ當事者ニ行為能力アルコトヲ必要トス廣ク行為能力(Handlungsfähigkeit)ト稱スルトキハ管ニ法律行為ヲ爲スノ能力(Geschäftsfähigkeit)ノミナラス不法行為ヲ爲ス能力(Delictfähigkeit)モ所謂其他ノ行為ヲ爲ス能力モ亦其中ニ包含セリ然レトモ狹義ニテ行為能力ト謂フトキハ單ニ法律行為ヲ爲ス能力ノミヲ意味ス而シテ予カ茲ニ行為能力トハ皆狹義ノモノナリ尙ホ何人カ如何ナル行為能力ヲ有スルヤニ付テハ諸子カ民法第一編第一章第二節能力ノ講義ニ於テ研究セラルヘキモノナルカ故ニ茲ニ之ヲ詳述ス

ルノ要ナシ

第三 法律行為ノ目的カ可能且適法ナルコトヲ要ス
法律行為カ有效ニ成立スルニハ管ニ行為能力ヲ有スル者ノ意思表示アルノミナラス其目的カ可能ナラサルヘカラス若シ法律行為カ不能ノ事項ヲ目的トシタルトキハ無効ナリ茲ニ不能トハ絶對的ノ不能ヲ謂フ元來法律行為ノ目的ノ不能ト云フコトハ或ハ之ヲ關係的不能ト絶對的不能トノ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ關係的不能トハ或特定ノ人ヨリ觀テ不能ナル場合ヲ謂ヒ絶對的不能トハ何人ヨリ觀ルモ不能ナル場合ヲ謂フ而シテ其絶對的不能ノ事項ヲ目的トスルトキハ法律行為ハ全ク無効ナリ例ヘハ宇宙間ニ存在セサル物ノ所有權ヲ移轉セントスル契約ノ如キ是ナリ
法律行為カ有效ナルニハ其目的ノ可能ナルノミナラス尙ホ適法ナルコトヲ要ス茲ニ適法トハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル場合ト法令ニ反セサル場合トノ二者ヲ包含ス予ハ此二箇ノ場合ヲ區別シテ之ヲ説明スヘシ
(イ) 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル場合 法律行為カ有效ト爲ルニハ公

ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル事項ヲ目的トスルコトヲ要ス若シ之ニ反シテ法律行為カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トシタルトキハ全ク無効ト爲ルヘキモノナリ(第九〇條) 我民法ニ於テ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ナル語ヲ用ヒタルハ佛蘭西民法ノ用例ニ依レルモノナリ(佛蘭西民法第七條、第一一條、第三三條參照) 獨逸民法ニ於テハ第一讀會ノ草案ニハ佛蘭西民法ニ倣ヒテ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ナル語ヲ用ヒタルモ獨逸ニ於テハ公ノ秩序ナル語ハ其意味甚タ不明瞭ナリトスル者多ク民法ヲ確定議ト爲ルニ至リテハ單ニ善良ノ風俗ナル語ノミヲ存シ公ノ秩序ナル語ヲ削除セリ然レトモ我國法ニ於テハ唯ニ民法ノミナラス法例等ニ於テモ亦佛蘭西民法ニ倣ヒテ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ナル語ヲ用フルニ至レリ(第九〇條、第九二條、第二八〇條、法例第二二條、第三〇條) 故ニ其意義ヲ研究スルノ要アリ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗トハ如何ナルコトナリヤ此問題ニ付テハ學者間ニ議論アリテ未タ明瞭ナル解釋ヲ與ヘタル者ナシト雖モ予ハ公ノ秩序ニ反ストハ現行國法上ノ大原則ニ反シテ國家ノ安寧ヲ害シ社會ノ秩序ヲ紊ルモノヲ謂ヒ

善良ノ風俗ニ反ストハ國民一般ノ道德觀念ニ違背シテ風俗ヲ壞ルモノヲ謂フモノナリト言ハントス而シテ現行國法上ノ大原則ニ反ストハ例ヘハ身體ノ自由、信教ノ自由、結社ノ自由、選舉ノ自由等ニ關スル原則ニ反スルモノヲ謂ヒ又國民一般ノ道德ノ觀念ニ違背ストハ國民全體ノ道德思想ニ反スル場合ヲ謂フモノニシテ或一派ノ學說若クハ或一箇人ノ道德思想ヲ以テ標準ト爲スヘカラサルモノヲ謂フ例ヘハ甲カ乙ニ對シ他人ヲ殺サハ金千圓ヲ與フヘシトノ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスルモノニシテ無効ナリ又例ヘハ甲カ乙ニ對シテ生涯婚姻ヲ爲ササレハ金一萬圓ヲ與フヘシトノ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ善良ノ風俗ニ反スルモノニシテ無効ナルヘシ(右ノ如ク公ノ秩序ニ反スル場合ト善良ノ風俗ニ反スル場合トハ互ニ之ヲ區別スルコトヲ得ルモ亦多クノ場合ニハ同一ノ事實ニシテ公ノ秩序ニ反スルト同時ニ善良ノ風俗ニ反スル場合アリ此ノ如キ場合ニ於テハ二者何レノ點ヨリ觀ルモ法律行為ヲ無効ト爲スコトヲ得ヘシ) (ロ) 法令ニ反セサル場合 法律行為カ有效ト爲ルニハ法令ニ於テ禁止シタル

所ノ事項ヲ目的トセサルコトヲ要ス若シ法律行為カ法令ニ禁止シタル事項ヲ目的トスルトキハ無効ナリ元來法律ノ規定ニ二種アリ一ハ其規定ノ遵奉ニ關シ當事者ノ意思ヲ容ルルノ餘地ナキモノニシテ一ハ當事者ノ意思ヲ容ルルノ餘地アルモノナリ其中ニ就キ當事者ノ意思ヲ容ルルノ餘地ナキモノヲ指シテ強行法ト謂ヒ當事者ノ意思ヲ容ルルノ餘地アルモノヲ指シテ聽用法ト謂フ抑モ民法ノ規定ハ其大部分ハ主トシテ簡人ノ利益ニ關スルモノナルカ故ニ其規定ハ必スシモ之ヲ強行スルノ必要ナシ寧ロ當事者ヲシテ任意ニ其規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シテ之ニ依リテ法律關係ヲ定メシムルコトヲ適當トス是レ聽用法ノ由リテ生スル所以ニシテ且民法ノ大部分ハ聽用法ナル所以ナリ然レトモ民法ト雖モ公ノ秩序ヲ維持スルカ爲メニ之ニ關スル規定ヲ設ケ其規定ヲ強行スル必要アル場合アリ是レ強行法ノ由リテ起ル所以ナリ而シテ法律行為カ法令ニ禁止シタル事項ヲ目的トシタル爲メ無効ト爲ルハ此強行法ノ場合ニ限ル聽用法ノ場合ニ於テハ當事者カ其規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキニテモ法律行為ハ無効ト爲ラスシテ其意思ニ依リ法律行為ノ效力ヲ定ムヘ

キモノナリ第九一條故ニ例ヘハ時効ノ利益ノ拋棄ニ關スル規定ハ強行法ナルカ故ニ當事者カ豫メ時効ノ利益ヲ拋棄スル契約ヲ爲スモ其行為ハ無効ナリ(第一四六條之ニ反シテ法定利率ニ關スル規定ハ聽用法ナルカ故ニ當事者カ金千圓ヲ貸與シ其利率ヲ年一割五分ト定ムルモ有效ナリ第四〇四條)

學者或ハ曰ク強行法ノ場合ニ於テハ法律關係ヲ定ムルモノハ法律ノ規定ナリ之ニ反シテ聽用法ノ場合ニ於テハ法律關係ヲ定ムルモノハ當事者ノ意思ナリト是レ普通見ル所ノ説明ナリ此説明ハ必スシモ誤謬ニ非サルモ之カ爲メ誤解ヲ來ササルコトヲ要ス聽用法ノ場合ニ於テモ當事者ノ意思カ法律ト併行シテ法律關係ヲ規定スルモノニ非ス當事者ノ意思ハ法律ニ非サルカ故ニ法律關係ヲ規定スル力ナシ故ニ強行法ノ場合ニ於テモ聽用法ノ場合ニ於テモ法律關係ヲ定ムルモノハ等シク皆法律ナリ唯強行法ノ場合ニ於テハ當事者ノ意思ヲ容ルルコトヲ許サスシテ絕對ニ之ヲ規定シ聽用法ノ場合ニ於テハ當事者ノ意思ヲ認メ其意思ノ定ムル所ヲ法律カ認容スルニ過キス此點特ニ注意ヲ要ス法律行為ノ有效條件ヲ述ズルニ當リ説明スヘキニ非サルモ本節ヲ終ルニ際シ

便宜上當事者カ聽用法ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ法律行為ノ效力ハ其意思ニ依リテ定マルト云フコトニ牽連シテ法律行為ト慣習トノ關係ニ付キ一言スヘシヤ。慣習ハ慣習法ト異ナリ法律ニ非スシテ事實ナリ然レトモ其實タル慣習ハ法律上何等ノ效力ナキニ非スシテ當事者ノ意思ヲ補充スルノ效力ヲ有ス即チ民法ノ規定ニ依レハ法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テハ法律行為ノ當事者カ其慣習ニ依ル意思ヲ有スルモノト認ムヘキ狀況アリタルトキハ其慣習ニ從ヒテ法律行為ノ效力ヲ定ムヘキモノナリ(第九二條)

第四節 意思表示

第一款 總論

既ニ述ヘタルカ如ク法律行為トハ私法上ノ效力ヲ生セシムルコトヲ目的トスル一箇ノ意思表示又ハ數箇ノ意思表示ノ合致シタルモノヲ謂フモノナリ隨テ

スル根據ハ刑法ノ目的ヲ達セサル可カラサル必要ニ在リ刑ヲ科スル目的ハ刑法ノ目的ヲ達セントスルニ在リ而シテ刑ヲ科スル目的モ亦上述ノ如ク刑ヲ科シテ被治者ノ一定ノ行為ヲ命令シ禁制セントスルニ在リ然ラハ刑ヲ科スル根據ハ被治者ノ一定ノ行為ヲ命令シ禁制セサル可カラサル必要ニ在リテ刑ヲ科スル目的ハ被治者ノ一定ノ行為ヲ命令シ禁制セントスルニ在リ然レトモ被治者ノ一定ノ行為ヲ命令シ禁制スルハ治者カ國家團體ノ秩序ヲ維持スル所以ニ外ナラサルヲ以テ刑ヲ科スル根據ハ公ノ秩序ヲ維持スル必要ニ在リテ刑ヲ科スル目的ハ公ノ秩序ヲ維持セントスルニ在リト謂フコトヲ得ヘシ。人間ヲ曰ク國家ハ何ノ故ニ法律行為ヲ保護スルコトヲ得ルヤ又ハ國家ハ何ノ爲メニ法律行為ヲ保護スルヤト誰カ其不敏ヲ嗤ハサランヤ法律行為ヲ保護スル基本又ハ目的如何ノ問題ハ仍ホ民法上ノ問題タルヲ失ハサル可シト雖モ寧ロ民法ノ立法論ニ屬スルヲミナラス又簡易ナル答辯即チ公ノ秩序ヲ維持スル必要アルニ由ルトノ一語ヲ以テ永解ス可キ問題ナリ而シテ民法

ニ於ケル何ノ故ニ若クハ何ノ爲メニ法律行爲ヲ保護スルヤノ問題ト刑法ニ於ケル何ノ故ニ若クハ何ノ爲メニ刑ヲ科スルヤノ問題トハ全然其性質ヲ同シタスルニ拘ハラズ民法ニ於ケル此單純ナル問題ハ何故ニ刑法ニ於ケル重要ノ問題タルヤヲ解スルニ苦シム

刑罰權ノ基本ニ關スル理論ハ此ノ如ク極メテ簡易ナル論理ナリ予ハ刑法ニ於テ特ニ之ヲ攻究スル價值アリヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得スト雖モ古來ノ刑法學者多クハ予ト立論ヲ異ニスルヲ以テ此問題ニ關シ種種ノ説明ヲ與ヘタリ其學說ヲ大別スレバ之ヲ絕對主義相對主義及ヒ折衷主義ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ

一 絕對主義 絕對主義トハ國家ハ何ノ故ニ刑ヲ科スルコトヲ得ルヤノ問題ヲ説明スルニ當リ其理由ヲ刑自體ニ付テ求ムルモノニシテ或ハ之ヲ報復主義又ハ純正主義トモ謂フ此主義ノ學者ノ說タ所ニ依レハ刑ヲ科スルハ敢テ他ノ目的アルニ非スト雖モ罪アレハ必ス刑ナカルヘカラサルハ正理ノ要求スル所ニシテ正理ハ國家社會萬般ノ制度ノ基礎ナレハナリト曰ヒ而シテ此

正理ノ要求ニ應センニハ必ス報復ニ依ラサルヘカラスト曰フ即チ正理ヲ基礎トスル學說ナルヲ以テ之ヲ純正主義ト謂フ罪ニ比例スル刑ヲ科スル學說ナルヲ以テ之ヲ報復主義トモ謂ヒ或ハ刑自體ニ付キ刑罰權ノ基本ヲ説明セントシテノ目的ノ如何ニ拘泥セサル學說ナルヲ以テ之ヲ絕對主義トモ謂フナリ

二 相對主義 相對主義トハ刑ヲ科スル根據ヲ刑自體ニ求メスシテ却テ刑ノ效果ニ求ムルモノ即チ刑ノ目的ハ公ノ秩序維持ニ在リトシ公ノ秩序ハ畏嚇威化其他ニ依リテ之ヲ維持ス可シト爲シ刑ハ畏嚇威化其他ノ效果ヲ生スルモノナルヲ以テ罪ニ對シテハ必ス刑ヲ科セサル可カラスト爲ス爾來唱道セラレタル學說ニシテ此種ノ主義中ニ屬ス可キモノヲ掲記スレハ概テ左ノ如シ

一 威嚇主義 威嚇主義ハ古來ヨリ晩近ニ亘リ繼續セル刑罰思想ニシテ所謂一ヲ殺シテ萬ヲ懲ラス主義ヲ謂フナリ即チ犯人ニ對シ刑ヲ執行シテ以テ他人ヲシテ再ヒ其罪ヲ犯スコトナカラシムル主義ナリ而シテ所謂脅嚇

- 主義即チ心理的強制主義(フイエールバハ)又ハ警告主義(パウエル)モ亦此畏嚇主義ノ一種様ナリト云フコトヲ得ヘシ(前掲)犯人ハ畏嚇ニ對シテハ、
- 二 豫防主義又ハ遮斷主義 此主義ハゴッホルマンノ創見ニ成リ各犯人ヲ刑シテ其後ノ犯行ヲ爲サザラシムル主義ニシテ上述ノ畏嚇主義ニ類似スト雖モ畏嚇主義ハ主トシテ一般ノ豫防ヲ目的トスル傾向ヲ有シ豫防主義ハ多少特別ノ豫防ヲ目的トスル傾向ヲ有スルモノトス
- 三 防衛主義 此主義ハマルチンノ唱道セルモノニシテ國家ハ刑ヲ科シテ以テ公ノ秩序ニ對スル不法ヲ防衛スト爲スモノナリ
- 四 威化主義 犯人ハ墮落セル人類ナリ故ニ刑ヲ科シテ以テ之ヲ懲治威化シ其良心ヲ回復セシメサルヘカラスト爲スモノ即チ威化主義ニシテ此主義モ亦特別豫防ノ傾向ヲ有ス(ローデル「モツ」サムラル其他監獄學者)
- 五 賠償主義 此主義ハウエルケルノ唱道セルモノニシテ國家ハ刑ヲ科シテ犯人カ生セシメタル無形ノ損害ヲ賠償セシムト爲スモノナリ
- 六 公益主義 「ベンザム」ノ唱道シタルモノナリ

三 折衷主義 折衷主義者ハ刑ヲ科スル根據ヲ刑目體ニ求メ正理ヲ以テソノ基礎ト爲スニ拘ハラス又國家カ刑ヲ科スル目的ハ公ノ秩序維持ニ在リト爲スモノナリ故ニ此主義ニ從ヘハ罪ニ對シ罪ニ比例スル刑ヲ報復スルコトヲ必要トスト雖モ其報復ニ一定ノ制限ヲ附シ公ノ秩序維持ニ必要ナル程度ニ於テノミ刑ヲ報復スヘキモノトスルナリ我國多數ノ學者ハ此主義ヲ以テ刑法ノ根本ノ主義ト思斷スル如シ

上來説明シタル主義皆多少ノ根據ヲ有ス予ハ主義トシテハ彼ノ相對主義ヲ信シ刑ヲ科スルハ公ノ秩序維持ヲ目的トスト信スト雖モ刑法ニ於テ特ニ此問題ヲ攻究スルハ寧ロ徒勞ニ屬セサルヤヲ疑ハサルヲ得ス縱令徒勞ニ屬セストスルモ公ノ秩序維持ノ目的以外ニ細密ナル目的ヲ求ムルコトヲ欲セス既ニ刑ノ目的ハ公ノ秩序ヲ維持スルニ在リトス然ラハ公ノ秩序ヲ維持スルニ必要ナラハソモ何事ヲカ爲スコトヲ得サルヘキヤ犯人ヲ威嚇スルモ可ナリ防衛スルモ可ナリ豫防スルモ可ナリ將タ又威化スルモ可ナリ又犯人ヲシテ賠償セシムルモ可ナリ豫メ一主義ヲ株守シテ自ラ其活動ヲ限縮シ公ノ秩序維持ノ方法ヲ減

所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得スト是レ刑法カ「コンズエチュード」ヲ認メサルコトヲ明示シタルナリ故ニ慣習法ハ只他ノ法律部而例セハ民法第九十二條、商法第一條ニ認メタル限度ニ於テノミ間接ニ刑法ニ影響ヲ及ホス可シ

二 刑法ハ所謂「デズエチュード」ヲ認メス「デズエチュード」ハ羅馬法上慣習ノ法ヲ廢止スル作用ヲ云フ刑法カ「デズエチュード」ヲ認メサルハ「コンズエチュード」ヲ認メサル當然ノ結果ナリ或ハ凡テ法律カ慣習法ヲ認メサルコトヲ明示セサル限リハ慣習法ヲ有效ナリト斷定セサルコトヲ得ス故ニ刑法モ「デズエチュード」ニ依リ廢止セラル可シ「デズエチュード」ハ刑法ノ適用ヲ遺忘シタルノミニテハ未タ之ヲ認ムルコトヲ得スト雖モ其適用ノ機會アルニ拘ハラス當該官廳即チ檢事局及ヒ裁判所カ不當ノ法律ナリト意思シテ長日時内之ヲ適用セザリシ場合ニ於テ之ヲ認ム可シト予ハ之ヲ採ラス

第二節 刑法ノ效力ノ始期

刑法規ハ常ニ成文ニ依リ存在スヘキモノナリト云ヒ得ヘケンハ刑法ノ效力ノ

始期ハ

一 法律ナルトキハ法例第一條ニ依リ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經タル日ナルコトヲ原則トシ特別ノ施行期限ヲ定メタル法律又ハ臺灣北海道沖繩其他島地ニ對シ特別ノ施行期限ヲ定メタル勅令アル場合ニ付テハ各所定ノ施行期限トス

二 勅令閣令省令ナルトキハ公文式第十條乃至第十二條ニ依レハ官報カ各府縣廳ニ到達スヘキ日ヨリ七日ヲ經過シタル日ナルコトヲ原則トシ特別ニ施行期限ヲ定メタル命令ニ付テハ其所定ノ施行期日トシ天災事變ニ因リ官報カ通常ノ到達日ニ於テ到達セザリシ場合又ハ北海道及ヒ沖繩縣ニ對スル場合ニハ其ニ官報カ實際上到達シタル日ヨリ七日ヲ經過シタル日トス

三 地方廳令(警視廳令ナルトキハ地方官廳ノ發スル命令)ノ公布式第三條ニ依リ公布ノ日ヨリ七日ナルコトヲ原則トシ島地又ハ島地ニ在ル郡役所ノ管轄ヲ受タル土地ニ對シテハ其命令カ島廳郡役所又ハ町村役場又ハ戸長役場ニ達シタル日ヨリ七日ヲ經過シタル日トス而シテ刑法カ效力ヲ發生セル時期

後ニ生シタル罪ニ對シテハ其刑法ノミヲ適用スルキモノト謂フコトヲ得ヘシ
刑法第三條第一項ニ曰ク「法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ズ」
ト是レ此大則ヲ明カニシタルモノニ過キスルモノナラズ

第三節 刑法ノ實質的效力

統治權ノ客體ハ人及ヒ土地ニシテ法ハ國家統治ノ必要上發生スルモノナレハ
法アレハ必ス人及ヒ土地ニ對シ一定ノ效力ヲ有セサルヘカラス茲ニ刑法ノ
實質的效力ト云フモノモ亦實ニ刑法ノ人ニ關スル效力及ヒ刑法ノ土地ニ關ス
ル效力ヲ云フニ過キスシテ此等ノ效力ノ研究ハ國際關係ヨリ觀察シテ所謂國
際刑法ト稱スル國際法ノ一分科ヲ成スモノナリ

第一項 土地ニ關スル效力

土地ニ關スル刑法ノ效力トハ刑法ノ效力ヲ及ホス土地ノ範圍ヲ謂フモノナリ
而シテ此問題ニ付テハ古來學者種種ノ學說ヲ唱道シ各國ハ各其見解ニ從ヒ刑

法ノ基礎タル主義ヲ定メタリ其重要ナル主義原則ハ大別シテ四ト爲スコトヲ
得
第一ハ屬地主義ニ屬地主義ハ現時尙ホ英米ノ採用スルモノニシテ刑法ノ土地
ニ關スル效力ニ付テノ學說中最モ前ニ發生セルモノナリ屬地主義ハ讀ミテ
字ノ如ク一國ノ刑法ハ其國內ニ於テ發生シタル總テノ罪ニ對シ適用スヘキ
モノニシテ且ツ當該國內ニ於テ發生シタル罪ノミニ適用スヘキモノナリト
爲ス學說ヲ謂フ然レトモ屬地主義ヲ採用スル刑法ハ當該國民カ當該國外ニ
於テ犯シタル罪ニ之ヲ適用スル能ハサルヲ以テ交通ノ便開ケ一國ノ臣民ニ
シテ諸外國ニ寄寓スル者口ニ多キヲ加フル現時ニ在リテハ遂ニ刑法ノ目的
即チ國家團體ノ秩序維持ノ目的ヲ達スルコト能ハス單純ナル屬地主義ヲ採
ル學說ハ既ニ一般學者ノ批難スルトコロニシテ今爰ニ之ヲ詳論スル價值ナ
シト信ス
第二ハ屬人主義ニ屬人主義ハ一國ノ刑法ハ單ニ內國民ノミニ適用スルモノニシテ外國民
ハ縱令其內國ニ在留スルトキト雖モ其刑法ヲ適用ヲ受ケス內國民ハ縱令其

外國ニ在留スルトキト雖モ其適用ヲ受クヘキモノト爲ス學說ハ即チ屬人主義ト稱スルモノナリ夫レ刑法ハ一國ノ秩序ヲ維持スルコトヲ目的トスルモノニシテ其目的ヲ達センニハ其國籍ノ如何ヲ區別セシテ總テ國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ對シ之ヲ適用セサルヘカラス屬人主義ヲ採用スル刑法ハ之ヲ國內ニ於テ罪ヲ犯シタル外國民ニ適用スル能ハサル點ニ於テ刑法ノ目的ニ背馳スルモノト謂ハサルヘカラス

第三 保護主義 保護主義ハ又之ヲ或ハ現實主義或ハ相對的法律秩序主義トモ稱シ內國ノ法物即チ內國又ハ內國民ノ利益ノ傷害ノミヲ罰スルモノニシテ且內國ノ法物ノ傷害ハ常ニ之ヲ罰スヘシト爲スモノヲ謂フ

第四 世界主義 世界主義トハ罪ハ其何國ニ於テ犯サレタルモノナルト又ハ其何國民ノ犯シタルモノナルトヲ問ハス一國ハ任意ニ自國ノ刑法ヲ適用シ得ヘシト爲スモノヲ謂フ然レトモ各國ノ刑法多大ノ差異アル現時ニ於テ世界主義ヲ採用センコトハ畢竟學者ノ空想タルニ過キス

刑法草案ハ刑法ノ土地ニ關スル效力ニ關シ數箇ノ條項ヲ設ケ明ニ屬人主義ヲ

採用セリト雖モ其條項ハ削除セラレテ法律ト爲ルニ至ラザリシ現時ニ於テハ最早刑法ノ主義ハ屬人主義ナリト謂フコト能ハスシテ優ニ刑法ノ一大缺點ト爲ササルコトヲ得ス予ハ刑法ノ土地ニ關スル主義ハ已ムナク條理ニ依リテ至善ナルモノヲ採用セサルヘカラスト信ス而シテ以上説明セル主義ハ各利弊アリト雖モ就中所謂保護主義ヲ以テ最モ條理ニ適シタルモノト爲ササルヘカラスル如シ

保護主義トハ上述ノ如ク內國ノ法物ノ傷害即チ內國又ハ內國民ノ利益ノ傷害ハ其犯人ノ內國民タルト又ハ外國民タルトヲ問ハス其犯罪地ノ國內タルト又ハ國外タルトヲ問ハス必ス內國ノ刑法ヲ適用スヘシト爲スモノナリ今左ニ保護主義ヲ採用セル刑法ノ土地ニ關スル效力ヲ詳論スヘシ

第一 內國ニ於ケル刑法ノ效力 內國ニ於ケル刑法ノ效力ハ所謂屬地主義ナラサルヘカラス即チ苟モ內國ニ生シタル罪ナランカ其犯人カ內國民ナルト又ハ外國民ナルトヲ問ハス總テ內國ノ刑法ヲ適用セサルヘカラス是レ一國ノ統治權ノ當然ノ效力ニシテ刑法ノ目的ヲ達スルニ必要ナル手段ナレハナ

リ所謂内國トハ當該國ノ領土領海及ヒ國船ヲ謂フ(刑法改正案第三條)

一 當該國ノ領土

二 當該國ノ領海 領海トハ當該國ノ領土ニ近接スル水面ヲ謂ヒ其區域ノ

如何ハ國際ノ條約ニ依リ決スヘキ問題ナリト雖モ近時ハ干潮ノ際砲彈ノ

達スヘキ最長距離内ヲ領海ト認ムルモノノ如シ此領海ハ當然内國ト認ム

ヘキモノニシテ其區域内ニ在ル内國ノ國船私船ハ勿論外國船舶ト雖モ其

國船ニ非サルモノハ當該國ノ刑法ノ支配ヲ受クヘキモノトス

三 當該國ノ國船 國船トハ軍艦其他ノ國家的船舶ヲ謂フモノニシテ國船

ハ公海ニ在ルトキハ勿論外國ノ領海ニ在ルトキト雖モ之ヲ内國ノ一部ト

看做スヘキモノトス予ハ國船ト曰ヒ船舶ト曰ハス即チ商船其他ノ私船ヲ

除外セシムトニ注意スヘシ

第二 外國ニ於ケル刑法ノ效力 一 國ノ刑法ノ目的ヲ達センニハ單純ナル屬

地主義ノミニ依ルヘカラスシテ須ク外國ニ於ケル内國民ノ犯行及ヒ時ニ外

國ニ在ル外國民ノ犯行ヲモ處罰セサルヘカラス

一 外國ニ於ケル内國民ノ犯行爲 外國ニ於ケル内國民ノ犯行ヲ罰スル

ハ所謂屬人主義ヲ認ムルニ外ナラスシテ内國民ハ内國ニ在留スルトキハ

勿論外國ニ在留スルトキト雖モ尙ホ内國ノ刑法ヲ遵守スル義務ヲ有スル

モノトス

二 外國ニ於ケル外國民ノ犯行 外國ニ於ケル外國民ノ犯行ハ通常外國ノ

刑法ニ依リ之ヲ處罰スヘクシテ他國ノ刑法ノ支配ヲ受ケシムヘキモノニ

非ス然リト雖モ外國民カ外國ニ於テ内國又ハ内國民ニ對スル犯行ヲ爲シ

タル場合ニ於テハ内國ノ秩序維持ノ必要上其犯行ヲ看過スルコトヲ得ス

此場合ニ於テ保護主義ヲ採ル刑法ハ其國ノ刑法ヲ外國ニ於ケル外國民ノ

犯行ニモ亦之ヲ適用セシム此點ニ於テハ恰モ世界主義ヲ認メタルモノ

ト云フ可シ

上邊ノ如ク外國ニ於ケル内國民ノ犯行及ヒ外國ニ於ケル外國民ノ犯行ニ對

シ我刑法ヲ適用スヘキモノトスレハ其結果左ノ三箇ノ問題ヲ生スヘシ

一 外國ニ於ケル如何ナル犯行ヲ罰スヘキヤ(刑法改正案第四條乃至第六條)

一 内國民又ハ外國民カ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ罰スヘシトスルモ其如何ナル罪ヲ罰スルヤノ問題ハ各國各其見解ニ從ヒ任意ニ之ヲ立法スル餘地アリ即チ茲ニ正確ニ其罪ヲ列舉スルコト能ハスト雖モ條理ニ據リ之ヲ論究スレハ

- (イ) 外國ニ於テ内國民若クハ外國民カ皇室又ハ内國ニ對シテ犯シタル罪
- (ロ) 外國ニ於テ内國民カ内國民又ハ外國民ニ對シ又ハ外國民カ内國民ニ對シ生命身體自由財産及ヒ信用ニ關シテ犯シタル罪
- (ハ) 外國ニ於テ内國ノ官吏公吏其他ノ公務員カ職務ニ關シテ犯シタル罪ノ如キ是ナリ然レトモ此種ノ罪ニ付テモ違警罪其他一國又ハ一地方ノ特殊ノ必要ニ基キ立法セル罪ノ如キハ其外國ニ於テ生シタル場合ニ於テハ内國法ニ依リ之ヲ所罰スル必要ナキヲ以テ之ヲ罰セサルコトヲ常トス
- 二 外國ニ於テ犯シタル罪ニハ如何ナル法律ヲ適用スヘキヤ 外國ニ於ケル内國民又ハ外國民カ犯シタル特定ノ罪ヲ罰スルハ一國ノ刑法ノ目的ヲ達スルニ必要ナル手段ナリトセハ此種ノ罪ニ對シ内國法ヲ適用スヘキコ

羅馬法王ノ一身及ヒ住居ハ不可侵ナリ又法王ハ近衛兵ヲ有スルコトヲ得ヘク自己ノ官吏ヲ任免スルコトヲ得ヘク又通信ノ自由ヲ有シテ特別ナル郵便局及ヒ電信局ヲ有シ外國ニ公使ヲ派遣シ又外國ヨリ公使ヲ受クルノ權利ヲ有ス以上數多ノ特權ヲ有スレトモ是レ皆伊太利ノ法律ヨリ受クル所ナルカ故ニ若シ伊太利ノ國家カ此法律ヲ廢止スルトキハ羅馬法王ハ何等ノ特權ヲモ有スルコト能ハサルヘシ是レ羅馬法王カ國際法ノ主體ニ非サル所以ナリ

國家トハ何ンヤ曰ク地球表面ノ一定ノ限ラレタル土地ノ上ニ人ニ對シテ主權ヲ有スル團體ナリ故ニ國家ニハ三箇ノ要素アリ第一、土地第二、人第三主權即チ是ナリ而シテ之カ主權ヲ行ハシカ爲メニ政治上ノ機關ヲ要スルコトハ言フ埃タス主權カ國內ニ行ハルルトキハ内部主權ト謂ヒ外國ニ對シテ行ハルルトキハ對外主權ト謂フ是レ唯主權ノ作用ヨリ觀タル名稱ニ過キスシテ主權自體ニ二箇アルニ非ス各國ハ國內ニ於テ自由ニ主權ヲ行フコトヲ得レトモ外國ニ對シテ統治ヲ爲スコトヲ得ス故ニ外國ニ對スル主權ノ作用ハ國內ニ於ケル主權ノ作用ノ如ク服從セシムルモノニ非スシテ對立スルモノナリ換言セハ國內法

ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ
此他尙ホ自然的境界ト人工の境界トノ區別アリ山岳河流沙漠等ハ自然的境界ト爲ルモノニシテ境石境杭街道溝渠運河吸セ浮標ノ如キハ人工の境界ト爲ルヘキモノナリ山ヲ以テ境トスルコトヲ定メタルトキハ分水線ヲ以テ境界トシ河川ヲ以テ境界トスルトキハ航行シ得ヘキモノニ付テハ其最深キ處ヲ以テ之ヲ定メ航行シ得ヘカラサルモノニ付テハ其中央ヲ以テ之ヲ定ム湖水ニ付テハ國際法ノ原則ナシ故ニ境界ヲ接スル國ノ合意ニ依ラサルヘカラス
海ヲ以テ境界ト爲ス場合ハ海岸ヨリ三海里ヲ其標準トス之ヲ稱シテ領海ト謂フ其以外ノ水面ヲ公海ト稱シ何レノ國家ニモ屬セサルモノナリ尙ホ地上ノ空中ハ何レノ處マテ之ヲ領地トスヘキヤハ未決ノ問題タリ固ヨリ土地ヨリ接續セルモノニ付テハ議論ナシト雖モ例ヘハ日本領地ノ空中ニ支那人ヲ殺シタルトキ合衆シタル輕氣球アリトセンニ此場合ニ於テ英國人カ支那人ヲ殺シタルトキハ孰レノ國家カ裁判權ヲ有スルヤノ問題ヲ生スヘシ地下ニ付テモ亦國家ノ主權カ何レノ邊ニ及フヤノ疑ヲ生スルコトヲ免レス

以上ヲ以テ領地主權ノ觀念及ヒ其範圍ヲ説明シタリ

第一款 領地主權ノ取得

國家ノ主權ハ國家ノ成立ト共ニ存スルモノナリ故ニ國家カ其成立要素ヲ具備シタル以上ハ茲ニ國家アリト謂フコトヲ得ヘシ而シテ國家ノ成立ハ一ノ事實ニ外ナラス故ニ自然的ニ成立シタルモノナルト條約ニ因リテ認めラレタルモノナルト又強制的ニ成立シタルモノナルトヲ問ハス其成立ヲ探究シテ之ニ區別ヲ設クルノ必要ナシ蓋シ其成立ノ原因カ其如何ナル方法ニ由リタルヤヲ問ハス領地主權ヲ享有スル上ニ於テ何等徑庭アルコトナケレハナリ

第一項 領地主權取得ノ主體

國家ハ國際法上ノ主體ナリ故ニ領地主權ヲ取得スルモノモ亦國家タルコトヲ要スルハ言ヲ埃タス而シテ領地主權ヲ取得スルニハ三箇ノ要素ヲ必要トス曰ク(一)國家カ領地ヲ取得スルノ意思アルコト(二)其取得ノ目的物アルコト(三)其取

得フ行爲アルコト即チ是ナリ本項ニ於テハ第一ノ要素ニ付テ説明スヘシ其先ツ領地主權ノ主體ノ何タルヤヲ定ムルニ非サレハ果シテ領地ヲ取得シタルヤ否ヤヲ確定スルコトヲ得ス蓋シ國際法上ニ於テ領地主權ヲ取得スル主體ノ如何ヲ定ムルハ私法上ニ於テ私權ヲ取得スル主體ノ如何ヲ定ムルト同一ナレハナリ然リ國際法上ニ於テ主權ノ主體タルコトヲ得ルモノハ即チ國家ナリト雖モ國家ハ素ト無形ノ法人ナルカ故ニ自ラ領地ヲ取得スルコトヲ得ス隨テ國家カ領地ヲ取得スルニハ必ス機關ニ依ラサルヘカラスシテ憲法上斯ル權限ヲ有スル者カ之ヲ取得スルコトヲ要ス而モ此機關ハ必スシモ常設ノモノタルコトヲ要セス又既ニ一私人ノ取得シタルモノヲ後日ニ至リテ國家カ承認シタルトキハ國家自ラ取得シタルト同一ノ結果ヲ生スルモノナリ而シテ一私人カ此命令ヲ受ケテ行爲ヲ爲スハ即チ國家ノ機關トシテ行動スルモノナルヲ以テ領地ヲ取得スルハ國家ノ機關カ之ヲ爲スモノナリト謂フヘシ而シテ其機關ハ外國人タルト内國人タルト問フコトナシ例ヘハ伊太利人カボト一カ英國王ヘンリー第七世ノ委任ヲ受ケテ北米大陸ノ一部分ヲ取得シタルカ如キ即チ其適

例ナリ英國ノ法律ニ於テハ英國人カ無主ノ土地ヲ取得スルトキハ常ニ英國ヲ代表スルモノト定メタルモノナリ而シテ其取得ハ其國カ承認スルモノナリ以上述ベタルカ如キナリ又以テ國家ノ命令ナク又追認ナクシテ一國民人ノ領地ヲ取得シタル場合ニ於テハ是レ單ニ一私人ノ行爲タルニ過キサルモノナリ隨テ此場合ニ於テハ國際法上國家ノ領土タルコトヲ得サルヤ言フ埃タス一私人若クハ會社カ自己ノ屬スル國家ト關係ナク國家的領地主權ヲ取得スルコトヲ得ルヤハ一ノ疑問ナリ今此問題ヲ決セントセハ左ノ二點ヨリ觀察スルコトヲ要ス第一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第二十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第三十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第四十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第五十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第六十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第七十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第八十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十一主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十二主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十三主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十四主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十五主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十六主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十七主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十八主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第九十九主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル第一百主權ノ主體ハ國家ニ屬スル土地ノ上ニ主權ヲ取得スルコトヲ得ル

カ國際法上ノ主權タルコトヲ得ヘシトフ事ハ國際公法上ノ國家タル性質ニ適合セサルモノナリ故ニ本問ニ於テハ私人若クハ私法上ノ會社ハ領地主權ヲ取得スルコトヲ得サルモノナリト斷定セサルヘカラス多數ノ國際法學者ハ予ト其斷定ヲ同シウズルニ拘ハラズ有名ナル國際法學者殊ニ英國ノ「トラベルストウイッス」其他一二ノ學者ハ明カニ私法上ノ會社カ領地主權ヲ取得スルコトヲ得ヘシト主張セリ然レトモ此說ヲ主張スル學者ト雖モ未タ學理的ニ其如何ナル理由ニ基クヤヲ説明シタル者ナシ唯事實上歴史上ニ於テ屢實現スル所ナリトシテ例示スルニ過キサルナリ然レトモ此問題ノ趣旨ハ斯ル事實カ國際法上果シテ領地主權ノ取得ナリヤ否ヤノ點ニ歸スヘキノミ今此點ヲ説明スルニ先チ左ニ其實例ヲ示サントス

(一) 獨逸ニ「ドイッチェー」ラッタルタルデンタルモノアリタリ是レハ宗教上ノ組合ニシテ異教信者ヲ排シ且異教信者ヲ改宗セシムルヲ目的トシタルモノナリ又同國ニ「シウユルトザル」デルタルモノアリテ此組合モ亦同一ノ目的ヲ有スルモノナリシガ千二百三十七年ニ至テ此二箇ノ組合ハ合併シテ「普爾西」タ

「ルラシンド」ラッラシンド等ノ土地ノ上ニ主權ヲ行使シタルコトアリ而シテ此團體カ主權ヲ行使シタル證據ハ外國ト條約ヲ締結シ戰爭ヲ爲シ公使ヲ交換シタルノ事實ニ徴シテ明白ナリ

(二) 「ヨハン」ニ「ラタル」タルダシ「如キモ亦主權ヲ行使シタルモノ」ノ例ナリ

(三) 千八百十六年米國華盛頓ニ「亞米利加」民會社ナルモノヲ創設セリ此會社ノ目的ハ黑人カ社會上並ニ法律上非常ナル壓制ヲ受ケタルヲ以テ黑人ヲ此壓制ヨリ免レシメントスルニ在リ而シテ此會社ハ千八百二十二年「亞弗利加」西部沿岸ニ領地ヲ取得シ其土地ニ對シテ主權ヲ行使セリ其後千八百三十九年ニ至リ此土地ハ華盛頓ニ在ル本社ヨリ獨立シ千八百四十七年ニハ遂ニ一箇ノ共和國ヲ組織シ翌年ニ至リ英國ノ承認ヲ受ケ千八百六十五年ニハ葡萄牙ノ承認スル所ト爲レリ今日ノ「リベリヤ」國即チ是ナリ此ノ如ク外國領地ニ非サル土地ニ對シテハ會社カ主權ヲ行使シタルコトアラハ「亞米利加」民會社ニ對シテハ

(四) 千八百三十一年リベリヤノ東方ニ於テ私法上ノ一會社設立セラレタリ其目的ハ前述シタル「亞米利加會社」ト同ナリ而シテ始「ラッラシンド」ト名ケタ

リシカ其後千八百五十四年迄ニ獨斷ニ宣言シ而シテ千八百六十八年ニ至リ「
 (五) 千六百三年和蘭東印度會社起リ又千六百年英國東印度會社起リタリ然レ
 トモ此二會社ハ本問題ノ適例ニ非ス何トナレハ前者ハ土地ヲ有シ人民ヲ有ス
 ル其土地及ヒ人民ヲ決シテ會社ノ土地人民ニ非スシテ畢竟本國ノ主權ヲ行
 使シタルニ過キザルハナリ後者モ亦英國カ其上ニ主權ヲ有スルモノニシテ會
 社自身ハ主權ヲ有セザルハナリ而シテ前者ハ千八百十年ニ至リ後者ハ千八百五
 十七年ニ至リテ之ヲ廢止セリ是ハ兩會社共ニ本國ヨリ其權限ヲ取戻サレタル
 ニ由ルモノナリ故ニ此二會社ハ適例ニ非ス

(六) 最近適例トシテ見ルニ亞弗利加ノ「ロンドン」國是ナリ此國ハ「スザン」
 上カ始メテ根據ヲ作リタル土地ニシテ千八百七十六年白耳義王「レオボルド」第
 二世カ亞弗利加國際會社ヲ創設シタルヨリ出ツルモノナリ而シテ此會社ハ「レ
 オボルド」王カ私人カヲ以テ爲シタルモノニシテ決シテ國權即チ國家ヲ代表シ
 テ行ヒタルモノニ非ス「レオボルド」王ハ其土地ノ會長ト土地割讓ノ條約ヲ締結

シ其土地ヲ以テ會社ノ所有トセテ葡萄牙ハ此土地カ自國ノ領域内ナル旨ヲ主
 張シ抗議ヲ提出セリト雖モ其抗議ハ竟ニ效ヲ奏セザリキ其後該會社ハ從來ノ
 私法上ノ會社タル關係ヲ廢シ主權ヲ行使スルニ至リシヲ以テ佛國ヲ始メ北米
 合衆國獨斷英國露國其他ノ諸國悉ク之ヲ承認シタルシモ獨リ葡萄牙ハ後ニ至
 リテ之ヲ承認スルコトト爲レリ而シテ千八百八十五年二月二十三日白耳義ヨ
 リモ專制君主國タル承認ヲ受ケ「レオボルド」第二世ハ白耳義王タルト同時ニ此
 專制君主國ノ元首ト爲リタル

(七) 千八百八十四年亞弗利加ニ於テ獨逸東部亞弗利加會社ガルモノ設立セラ
 レタリ此會社ハ同年十一月及ヒ十二月ニ於テ其土地ニ於ケル會長ト條約ヲ締
 結シ其土地ヲ割讓スルコトト爲シタリ其條約文中ニ獨逸ノ法律ニ從ヒ主權ナ
 ル意義ヲ有スル權利ヲ會社カ獲得スルモノナリトフ明文ナリ而シテ翌年二月
 二十七日ニ至リ會社ハ獨逸帝國ニ其主權ヲ與ヘタリ

(八) 東部亞弗利加ニ「ウッ」ナル土地アリ千八百八十五年四月八日此地ノ會長
 ハ二十平方里ノ土地ノ所有權及ヒ領地主權ヲ獨逸ニ旅行者タル「クレメンス」デ

ンハルト」ニ賣リ而シテ同年五月ニ至リ獨逸帝國ノ保護ヲ受ケルニ至レリ
(九) 支那ノ「マカオ」ニ於テ千八百五十七年ヨリ千八百六十二年ニ至ルマデ葡萄牙ノ商人ハ主權ヲ行ヒタリ
(一〇) 「ボルネオ」ニ於ケル「サラワイク」ニハ千八百四十一年「サージェームズブルーク」其主權者ト爲リ其後千八百六十六年ニ至リ「ブルーク」死シタルヲ以テ其孫「チャールズ・ジョン・ブルーク」ナル者其土地ニ對シテ主權ヲ行使スルニ至レリ此問題ハ國法上ト國際法上トノ兩點ヨリ觀察セサルヘカラス國法上ヨリ觀レハ原則トシテ主權ハ國家ノミニ屬スルモノナルヲ以テ一人又ハ私會社カ主權ヲ取得スルコト能ハサルハ言フ埃タサル所ナリ故ニ國法上ノ問題トシテハ一人又ハ私會社ハ如何ナル場合ニ於テ國權ノ代表者ナリシヤヲ決スルニ過キサルナリ次ニ國際法上ヨリ觀察スルモ一人又ハ私會社カ土地ヲ取得スル場合ニ於テハ其土地ハ國家タル性質ヲ有スルニ至リ始メテ國際法上ノ主體タルコトヲ得ヘキモノトス或主權ニ服従スル一人又ハ私會社カ一方ニ於テハ一國ニ服スルモノトシ同時ニ他方ニ於テハ國家ノ主權者ナルコトハ到底兩立スヘ

カラサルモノニシテ又理論ノ許サザル所ナリ故ニ予ハ一人又ハ私會社ハ本國トノ關係ヲ脫離シタル後即チ本國ノ主權ニ服従スルノ關係ヲ去リタル後ニ於テ始メテ其土地上ニ主權ヲ行使スルコトヲ得ヘシト信ス蓋シ是レ新ニ國家ヲ創設スルモノナレハナリ

第二項 領地主權取得ノ客體

國家カ領地ヲ取得スルトハ如何ナル國家ノ統治ノ下ニモ服従セザル土地ニ或國家カ統治ヲ行フヲ謂フ故ニ領地主權取得トハ或土地ヲ自國主權ノ下ニ立タシムルコトナリ領地取得ノ客體ハ土地カリ領地トハ地球ノ表面上ニ或一定ノ區劃セラレタル部分ナリ即チ主權ノ及フ地理的範圍ヲ謂フ領地主權ハ主權ノ客體ハ土地及ヒ人民ナルコト既ニ述ヘタル所ニ如シ而シテ其人民カ其國ノ主權ニ服従スルハ其國家ノ國籍ヲ有スルカ爲メナリ故ニ主權カ土地ニ對スルト人民ニ對スルトハ其間ニ大ナル差異ニ存スルアリ中古ニ於テハ人民ハ土地ニ附屬スルモノトセリ是レ封建時代ノ思想ニシテ今日ニ於テハ此ノ如キ

思想ヲ有スル者ナシ甲國人ニシテ乙國ニ赴クモ全然乙國ノ主權ニ服従スルモノニ非ス唯或範圍内ニ於テ乙國ノ主權ニ服従スルノミ故ニ土地ノ主權ニ服従スル理由ト人民カ主權ニ服従スル理由トハ大ニ異ナル所アルモノナリ人民カ服従スルハ僑人的ノ關係ニシテ土地カ服従スルハ地理的關係ナリ今日ニ於テハ何レノ國家ノ法律ト雖モ絕對的ノ屬人主義ヲ認メヌ又絕對的ノ屬地主義ヲモ認メヌ而シテ絕對的ニ此主義ノ一ヲ採ルトキハ國際法上ノ問題ヲ惹起スルコトナキモ此二主義ヲ折衷シタル主義ヲ認ムルヲ以テ隨テ國際法上ノ問題ヲ生ス即チ自國人ハ內國ニ在ルトキハ勿論自國ノ主權ニ服従シ外國ニ在ルトキト雖モ屬人主義ノ結果トシテ本國ノ主權ニ服従シ屬地主義ノ結果トシテ人ハ自己ノ存在スル外國ノ主權ニ服従シ又外國人カ我國ニ來ルトキハ屬地主義ノ結果トシテ均シク我國ノ主權ニ服従シ又屬人主義ノ結果トシテ本國ノ主權ニモ服従スルモノトス

國家カ土地ヲ取得シタルトキハ其土地カ客體トシテ服従スルヲ故ヲ以テ土地ニ在ル人民ハ同時ニ其主權ニ服従スルモノニ非ズ人民ニ對シテハ僑人的ノ

關係ニ依リテ之ヲ決定ス

ハ非ズルカリ

領地主權ヲ取得シタル者其主權如何ナル部分ニマテ及フヘキモノナリカ往昔ニ於テハ殖民地ハ本國ニ分テ又ハ外國ヲ分テ主タル部分從タル部分ト爲シタルコトアリ然レモ殖民地カ特別一箇ノ領地ナリト謂フコトヲ得サル言ヲ採ルニ即チ殖民地ハ本國領地ノ一部分ニシテ本國領地主權ノ取得ハ當然之ニ及フヘキモノナリ殖民地ニ於テ本國ト異ナリタル憲法制度ヲ有スルコトアリト雖モ是レ本國カ殖民地ニ對シテ本國ノ憲法以外ニ行動スルコトヲ認許スルモノニシテ隨テ本國ハ殖民地ニ對シテ特別ニ許シタル憲法ヲ廢止スルコト亦自由ナリ

海洋ハ領地主權ノ客體ト爲ルヲ得ルヤ否キノ問題アリ此事ニ關シテハ羅馬法ニ於テハ海洋ハ主權及ヒ所有權ノ客體ト爲スコトヲ得サルモノトセリ然ルニ中古ニ至リテ此原則ハ變シ統治權ノ目的物トナルコトヲ得ルモノト爲ズニ至レリ例

權ノ及フハ其範圍内ナリト主張セリ其後英國モ亦之ヲ主張シ葡萄牙西班牙等モ亦之ヲ主張セリ加之羅馬法王カ海洋ヲ二分シテ葡萄牙西班牙等ニ分與シタルコトアリ此當時ヨリ海洋ハ領地主權ノ客體ト爲スコトヲ得ルノ原則行ハルルニ至リ其理由ハ(一)國カ他國ノ交通ヲ妨害セシトスルコト(二)其國家カ海洋ノ利益ヲ壟斷セントスルコト(三)海洋ヲ或國ノ主權以外ニ置クトキハ海賊ノ横行スルモ之ヲ處分スルコトヲ得サルガ故ニ海洋ヲ或強國ニ與ヘテ之ヲ取締ラシメントスルコト等ニ在リ然レトモ法王ハ海洋ヲ分與スルハ權利ヲ有スルモノニ非ス即チ法王ハ自己ノ有セサル權利ヲ葡萄牙及ヒ西班牙ニ與ヘタルモノナルヲ以テ其違法タルヤ言フ埃タス然レモ其時ハ本國領土主權ハ此ノ如ク諸國カ海洋上ニ主權ヲ主張シタルニ付キ最モ困難ヲ感シタルハ和蘭ニシテ之カ爲メ東印度ヘノ通路ヲ壅塞セラレタリ是ニ於テカ彼ノ有名ナル「ライプジーグロチーヌ」海洋自由論ヲ發行ヲ見ルニ至レリ氏ハ論シテ曰ク「海洋ハ元來主權ノ目的物ト爲スモノニ非スシテ空氣ノ如ク自由ナラサルヘカラス故ニ海洋ハ二國ノ爲メニ閉鎖セララルモノニ非ス」ト之ニ反對セルハ英國ニシ

テ時ノ英國王「チャールズ一世」ハ和蘭政府ニ請求シテ「グロチーヌ」ヲ處罰セシメントシ且セルズンニ下命シテ千六百三十六年閉鎖海論ヲ著述セシメ海洋ハ或一國家ノ領地主權ノ客體ト爲ルヲ得ヘキモノナルコトヲ論セシメタリ而シテ其當時ハ各國皆海上ニ主權ヲ行使スルコトヲ得ルモノト爲シタルノミナラス事實ニ於テモ亦之ヲ行使シタルカ故ニ「グロチーヌ」ノ説ハ當時ニ於テ採用セラレタリキ然ルニ其後ニ至リ「グロチーヌ」ノ所論ハ其正鵠ヲ得タルモノナルコトヲ普ク認ムルニ至リ皆海洋ノ自由ヲ主張スルニ至リタリ而シテ今日ニ於テハ海洋自由論ニ對シ反對ヲ試ムル者ナシ然レトモ海ノ一部ハ尙ホ閉鎖セララルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ沿海又ハ灣等カ或國ノ專權ノ下ニ立ツ如キ是ナリト云フモノハ其範圍内ナリト主張セリ其後英國モ亦之ヲ主張シ葡萄牙西班牙等モ亦之ヲ主張セリ加之羅馬法王カ海洋ヲ二分シテ葡萄牙西班牙等ニ分與シタルコトアリ此當時ヨリ海洋ハ領地主權ノ客體ト爲スコトヲ得ルノ原則行ハルルニ至リ其理由ハ(一)國カ他國ノ交通ヲ妨害セシトスルコト(二)其國家カ海洋ノ利益ヲ壟斷セントスルコト(三)海洋ヲ或國ノ主權以外ニ置クトキハ海賊ノ横行スルモ之ヲ處分スルコトヲ得サルガ故ニ海洋ヲ或強國ニ與ヘテ之ヲ取締ラシメントスルコト等ニ在リ然レトモ法王ハ海洋ヲ分與スルハ權利ヲ有スルモノニ非ス即チ法王ハ自己ノ有セサル權利ヲ葡萄牙及ヒ西班牙ニ與ヘタルモノナルヲ以テ其違法タルヤ言フ埃タス然レモ其時ハ本國領土主權ハ此ノ如ク諸國カ海洋上ニ主權ヲ主張シタルニ付キ最モ困難ヲ感シタルハ和蘭ニシテ之カ爲メ東印度ヘノ通路ヲ壅塞セラレタリ是ニ於テカ彼ノ有名ナル「ライプジーグロチーヌ」海洋自由論ヲ發行ヲ見ルニ至レリ氏ハ論シテ曰ク「海洋ハ元來主權ノ目的物ト爲スモノニ非スシテ空氣ノ如ク自由ナラサルヘカラス故ニ海洋ハ二國ノ爲メニ閉鎖セララルモノニ非ス」ト之ニ反對セルハ英國ニシ

中ニ入ルヘキ理由ハ其沿岸ヲ有スル國家ノ秩序ヲ維持スルヲ爲メニシテ
 二ハ土地ニ對シテ完全ニ主權ヲ行使スルニ海上ニマテ主權ヲ及ササルカ
 ラスト爲メニ出テ三ハ其沿岸地ニ住居スル人民ヲ保護セシメ爲メナリ
 領海ニ廣狹ノ二義アリ廣義ニ於ケル領海トハ予ノ所謂沿岸海及ヒ領海ヲ包含
 スルモノニシテ狹義ニ於ケル領海トハ港又ハ灣ヲ謂ヒ此港灣内ハ港灣ノ入口
 ニ於テ防禦シ得ルノ實力ヲ有サルトキ其防禦常設ノ兩點ヲ結附クル直線ヨ
 リ陸ニ向テ所ノ凡テ部分ヲ領海トス然レドモ一海ニ向テ防禦セザル
 次ニ述フスキハ河流ナリ河流ハ之ヲ分テテ二トス即チ海ニ注ク河及ヒ河ニ注
 ク河ナリ河ニ注ク河トハ或河ニ注キ其名稱ヲ變シテ海ニ注クモノヲ謂フ海ニ
 注ク河トハ水源ヨリ名稱ヲ變スルコトナクシテ海ニ注クモノヲ謂フ又河流ヲ
 他ノ標準ニ依リ之ヲ分ツトキハ領河及ヒ國際河ノ二ト爲メトテ得國際河ト
 ハ各國一般ニ自由ニ航行スルコトヲ得ル河流ヲ謂ヒ領河トハ一國ノ領地内ノ
 ミテ流ルル河流ヲ謂フ又河流ハ一國ノ領地内ヲ通過スル河流トハ三國ノ境界ヲ
 流ルル河流ト多數國ヲ貫通スル河流トハ三ツアリ一國內ヲミテ流ルル河流ハ領

河ナルヲ以テ其國獨リ主權ヲ行使セオムコトヲ得然レドモ二國ノ境界ヲ流ルル河流
 ハ更ニ分テテ航行シ得ヘカラサル海上航行シ得ヘキ河トハ二ト爲メ前者ハ其
 中央ヲ以テ境界トシ後者ハ最深キ部分ヲ以テ境界ト爲メヘキコト當テ述ベ
 タルカ如シ次ニ數國ヲ貫流スル河ハ如何ナル國家ト雖モ絕對ニ之ニ對シテ主
 權ヲ行使スルコトヲ得ス非自由航行ノ河流ニ於テハ其實流スル數國ノミ之ニ
 對シテ主權ヲ行使スルコトヲ得然レドモ各國ノ主權ヲ失フモノニ非ス國
 際河流ハ外國船舶ノ航行ヲ許スモ敢テ之ニ對スル主權ヲ失フモノニ非ス國
 際河流ニ付テハ多ク條約ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ其條約ノ根據スヘキ原則ト爲
 ルヘキ事項四アリ一其河ハ一國ノ領地内ヲ流ルルモノニ對シテ他國ノ船舶ニ對
 一其河流ヲ航行スル船舶ニ對シテ沿岸國ハ妨害ヲ加ヘテオムコトヲ得
 二河流ハ或一國ノミノ船舶ニ對シテ航行ヲ許スモノナリ各國ノ船舶ニ對
 三其河流ヲ航行ヲ許スヘキコト三十一條三十三條三十四條三十五條ニ規定
 四其委員會ニ屬スル建物官吏等ヲ局外中立爲スルハ必要ナリ

今日世界ニ於ケル國際河流ノ主要ナルモノヲ舉示スレハ左ノ如シ
 第一「ライン」河 此河ノ航行自由ヲ約定シタルハ「巴里」條約第五條維納條約第十七條是ナリ其後千八百三十一年三月三十一日「ライ」航行條約ニ於テハ航行ノ權利ヲ沿岸國ニノミ限リタルモ其後千八百六十八年七月十七日ノ改正條約ハ「バーゼル」ヨリ海ニ注クマテノ間ニ各國船舶ノ航行ヲ許スニ至レリ面シテ千八百七十九年五月十日ノ「バーゼル」ト「瑞士」ノ條約ニ於テハ「ノエ」ハウゼンニ至ルマテ之ヲ擴張セリ
 第二「ダニューブ」河 此河流ハ千八百五十六年「巴里」條約第五條以下ニ之ヲ定メイルレルヨリ海ニ至ルマテノ間各國船舶ノ航行ヲ認許セリ次「ダニューブ」河委員會設置セラル該委員會ハ固ヨリ「時的」ノモノニシテ永久的ノモノニ非ス即チ一定ノ期間ヲ經テ廢止セラルヘキモノナリ此委員會ハ「イタリヤ」ヨリ海ニ至ルマテ航行セシムヘシト定メタリ其後千八百六十五年十一月二日ノ「ダニューブ」河口航海條例ヲ以テ歐羅巴委員會ニ屬スル建物及官吏ハ局外中立トスルコトヲ定メタリ又千八百七十八年「柏林」條約ニ依リ其航行ノ自由範圍

ヲ擴張シ鐵門ニ至ルマテ各國船舶ノ航行自由ヲ認許シ又該條約第五十三條ヲ以テ委員會ノ權限ヲ擴張セリ千八百八十三年三月十日倫敦條約ニ依リテ此歐羅巴委員會ノ權限ヲ向後二十箇年間付與スルコトヲ約定セリ而シテ茲ニ注意スヘキハ航行ノ自由ナルコトヨリ軍艦ヲ除外スルコト是ナリ
 第三「コンゴ」河 此河流ハ千八百八十五年二月二十六日「柏林」會議ニ依リテ之ヲ決定シタルモノトス其約定中ノ重ナルモノハ左ノ如シ
 一 航行ノ自由ハ獨リ河流ノミニ限ラスシテ其支流湖運河鐵道街道等ニモ及フヘシ
 二 航行ノ自由ハ唯リ商船ノミニ限ラスシテ軍艦ニ及フ
 三 戰時ト雖モ航行ヲ自由ニス但戰時禁制品ヲ積載シタル船舶ノ航行ヲ許

サス

四 國際委員會ヲ設置シ其委員會委員委員會ノ事務室記錄ノ如キハ皆局外

中立タルヘシ

以上掲タル所ノモノハ其主要ナルモノヲミナリ其約定ノ條項數多アリ而シテ雖モ

被ニ之ヲ述ヘス要スルニ河流ハ領地主權獲得ノ目的物ニシテ主權ノ客體ト爲
リ得ヘキモノナリ

第三項 領地主權取得ノ原因及ヒ種類

領地主權ヲ取得スルニハ正權原ナカルヘカラス土地ハ所有權ノ目的物ナリト
云フ理由ヲ以テマルテンズ氏ノ如キハ此點ニ付キ羅馬法ノ原則ノ一部又ハ全
部ヲ國際法ニ適用スルコトヲ得ヘキモノナルコトヲ主張セリ然レトモ是レ羅
馬法ヲ適用スルコトヲ得ルニ非スシテ兩者カ偶然其原則ヲ同一ニスルコト云フニ
過キサルナリ

領地取得ノ原因ヲ分チテ(一)本來ノ取得(二)傳來ノ取得ノ二ト爲ス林會第二編
第一ノ本來ノ取得

本來ノ取得トハ何國ニモ屬セサル領地ヲ自國ニ屬セシムルヲ謂フ左ニ之ヲ分
説スヘシ

(一) 先占 先占トハ何國ニモ屬セサル土地ヲ自國者主權ノ及ビ範圍ト爲ス

而シテ先占ニ必要ナル條件六箇アリ

(イ) 先占ハ國家主權ノ名ニ於テ爲ササルヘカラスアルコトニ意欲スルモノ
(ロ) 先占ノ意思アルモノト爲スルニ其意欲ニ當テ主權ヲ行使スルモノ
(ハ) 之ニ伴フ行爲アルモノト爲スルニ其意欲ニ當テ主權ヲ行使スルモノ
(ニ) 右行爲ハ繼續スルコトヲ要ス主權ハ不可侵ノモノナリ其行使ハ斷斷
(ホ) 無主ノ土地ナルコトヲ要ス主權ハ不可侵ノモノナリ其行使ハ斷斷
(ヘ) 判然タル境界ヲ定ムルコトヲ要ス主權ハ不可侵ノモノナリ其行使ハ斷斷
以上ノ條件ヲ具備シ始メテ先占アリト謂フコトヲ得ヘシ

(二) 自然増殖 増殖ニハ二箇ノ條件ヲ必要トス即チ(一)入力ヲ加ヘサルコト(二)
從來ノ領地ニ附著シタルモノナルコト是ナリ而シテ増殖ニ因リテ領地ヲ取得
スル場合ハ次ノ三箇場合ヲ別ス

(イ) 水流ノ變動ニ因ル附著 水ノ流動ニ因リテ領地ニ附著スルモノアリ
(ロ) 河底又ハ海底ノ乾燥 風ニ因リテ河底又ハ海底ノ乾燥ニ因リテ領地ニ附著スルモノアリ
(ハ) 植物ノ發現 植物ノ發現ニ因リテ領地ニ附著スルモノアリ

第二 傳來ノ取得

傳來ノ取得トハ、威國家ノ主權ニ屬シタル領地ヲ取得スル行爲ヲ謂フ而シテ其行爲ニハ讓渡國ニ於テ之ヲ讓渡スノ意思ヲ有シ讓受國ニ於テ讓受クルノ意思アルコトヲ要ス是レ即チ國際法上ニ於ケル法律行爲ナリ之ニ反シテ掠奪ニ付テハ之ヲ取得スル國家ニ於テハ之ヲ取得スルノ意思アルモ掠奪セラルル國家ニ於テハ之ヲ讓渡スノ意思ヲ有セスシテ全ク其意思ニ反スルモノナリ土地取得ノ有效無効ハ一ニ其條約ニ依リテ之ヲ決定スルモノナリ其條約ニシテ有效ナランカ其取得モ亦有效ナリ其條約ニシテ無効ナランカ其取得モ亦無効ナリ其條約ノ果シテ有效ナリヤ將タ無効ナリヤハ普通一般ノ條約締結等ニ要スル原則ニ從ヒテ定ムヘキモノナリ或ハ主權ハ不可分ノモノナリ又ハ領地ハ割讓スカラサルモノナリ故ニ割讓ハ國際法上許スヘカラサルモノナリト論スル者アリ然レトモ領地ノ一部分ヲ分割スト云フハ其部分ニ從來主權ヲ行使シツツアリタルモ主權行使ノ範圍ヲ越テ他國主權ノ行使ヲ許スコトヲ意味スルモノニシテ決シテ其主權ニ毫末ノ變更タモ生スルコトナク唯主權ノ下ニ立ツ所ノ

第十 千八百九十九年七月二十九日萬國平和會議最終決議書中陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約及ヒ千八百六十四年八月二十二日ジネチヴ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スルノ條約ノ二條約及三宣言ヲ以テ之ヲ代表スルモノトシテ之ヲ國際法ニ屬シ陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ハ六十箇條ヨリ成リ其規定ハ些少ノ變更及ヒ附加ヲ以テ殆ト全ク「ブルセル」宣言ノ規定ヲ採用シ又「ジネチヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スルノ條約ハ千八百六十八年赤十字條約追加條款ヲ基礎トシ十四條ヨリ成リ其他三宣言ハ悉ク千八百六十八年聖彼得堡宣言ノ趣旨ニ基キタル規定ニシテ其詳細ハ戰闘ノ方法ヲ説明スルニ當リテ說述スヘシ

又平和會議ニ於テ於テ之ヲ代表スルモノトシテ之ヲ國際法ニ屬シ陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ハ六十箇條ヨリ成リ其規定ハ些少ノ變更及ヒ附加ヲ以テ殆ト全ク「ブルセル」宣言ノ規定ヲ採用シ又「ジネチヴ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スルノ條約ハ千八百六十八年赤十字條約追加條款ヲ基礎トシ十四條ヨリ成リ其他三宣言ハ悉ク千八百六十八年聖彼得堡宣言ノ趣旨ニ基キタル規定ニシテ其詳細ハ戰闘ノ方法ヲ説明スルニ當リテ說述スヘシ

本會議ハ現今世界ノ重要ナル軍備ノ負擔ヲ制限スルコトヲ以テ人類ノ有形

的及ヒ無形の福利ヲ増進セシムルガ爲メ甚々希望スルモノト認ムルハ誠ニ公理ト決議シ此決議ノ外ニ於テ

- 第一 本會議ハジュネヰヰ條約ノ改正ニ關シ瑞西聯邦政府ノ爲シタル準備の處置ヲ參酌シ該條約ノ改正ヲ目的トスル特別萬國會議ヲ開クノ舉ヲラムコトヲ希望ス
- 第二 本會議ハ中立國ノ權利義務ニ關スル問題ヲ次回ノ萬國會議ノ議題中ニ掲ケムコトヲ希望ス
- 第三 本會議ハ本會ノ審議ニ付セラレタル如キ小銃及ヒ海軍用ノ大砲ニ關スル問題ヲ列國政府ニ於テ攻究シ新式及ヒ新口径ノ銃砲ノ使用ニ付キ協商ヲ遂タルニ至ラムコトヲ希望ス
- 第四 本會議ハ列國政府ニ於テ本會議ニ上リタル提議ヲ參酌シ陸海軍ノ兵力及ヒ軍事費豫算ニ關シテ協商ヲ遂ク得ヘキカヲ攻究セラレムコトヲ希望ス
- 第五 本會議ハ海戰ノ際ニ私ノ財產ヲ侵害スヘキカラサルコトヲ宣言スルヲ旨トスル提議ハ之ヲ後日ノ萬國會議ニ討議ニ付セラレムコトヲ希望ス

第六 本會議ハ軍艦ヨリ港市町村ヲ砲撃スルコトニ關スル問題ヲ規定セントスル提議ハ之ヲ後日ノ萬國會議ニ審議ニ付セラレムコトヲ希望ス

ト決議シ就中第二ハ全會一致自條ハ諸國ノ代表者中若干ノ棄權ヲ以テ可決セリ

第二編 交戰關係ノ法則

第一章 戰爭ノ開始

第一節 總則

國家間ノ紛議ヲ決定スヘキ最後ノ手段ハ戰爭ノ外ナシト雖モ戰爭ハ悉ク國家間ニ於ケル紛議ノ結果ニ出ツルコトヲ必要トセス千七百四十年普國フレデリック大王カ埃國シレシヤ州ヲ侵略シタル戰爭ハ同州ヲ割讓スルカ爲メ普國政府カ派遣シタル使節カ埃國首府ニ到着スル二日前ニ於テ國境ニ對シ普國軍隊ガ進入シ埃國政府ハ何故ニ普國カ戰爭ヲ開始シタルヤヲ知ラザリシコトアリ又國際紛議ニ於テモ戰爭ハ之ヲ決定スルノ最後ノ手段ナルヘキニ拘ハラス實際

ニ於テハ、斯ル紛議ニ關シ國家間ニ戰爭ヲ最後ノ手段ト看做シ得ヘキ外交談判ヲ盡サスシテ戰爭ト爲リタルコト古來耶シテ隨テ一切ノ外交手段ヲ盡シタル後ニ於テ戰爭ト爲ルニ限ラサルモノトス。千八百九十八年米西戰爭ハ同年二月十五日米國軍艦「メイン」カ「ハダデナ」港ニ於テ艦内ニ起リタル爆發爲メ沈没シタルニ米國ノ輿論ハ之ヲ西國ノ行爲ナリト疑セ同紛議ニ於テ西國政府ハ當初ヨリ之ヲ仲裁裁判ニ付セント提議シ米國大統領「マッキンリー」モ該問題ハ平和的談判ニ依リ終局シ得ヘキ餘地アルコトヲ認メ居タルニ拘ハラズ米國會ニ於テ「キューバ」島ノ獨立ヲ認メ米國政府ハ西國ヲシテ同島ニ對スル主權ヲ拋棄シ其陸海軍ヲ同島ヨリ撤退スヘキコトヲ要求スルノ責務アリト決議シ四月二十日大統領モ其決議ニ已ムヲ得ス。調印シテ戰爭ニ至リタルハ其一例ナリ之ヲ要スルニ戰爭ハ國際紛議ヲ決スルノ最後ノ手段ナルコトナレトモ國家カ友誼國ニ對スル交誼ニ背キ國際公法ニ違反シテ戰爭ヲ惹起シタル時ニ於テモ斯法上之ヲ戰爭ニ非スト云フコト能ハサルカ故ニ戰爭ヲ開始ハ必スシモ國際紛議ノ結果ニ出ラサルコトアリ又國際紛議ノ結果ニ出ラタル場合ニ於テモ必スシモ

其紛議ヲ決セントスル平和的手段ヲ盡キタル後ニ於テスルモノニ限ラサル所
以ナリ
戰爭ニ於テハ必ス平和的國交ヲ斷絶スト雖モ平和關係ノ中斷ハ必スシモ戰爭ニ非サルコトハ前述ノ如シ隨テ戰爭ヲ平和關係ノ代位ナリト爲スニ定義ハ未タ其詳細ヲ盡シタルモノニ非ス又戰爭ニ於テハ必ス兵力ヲ以テ敵國ヲ攻撃スト雖モ報仇及平時封鎖ニ於ケル場合ノ如キハ兵力ヲ以テ對手國ヲ攻撃スレトモ平和的國際關係ノ斷絶セサル以上ハ戰爭ノ開始ニ非サルコト前述ノ如シ千八百八十四年及五年ニ於ケル清佛事件ハ佛國カ東京征討ニ際シ清國ノ兵士カ土人ニ加ハリテ佛國兵ニ反抗シタルカ爲メ佛國政府ハ其取締ヲ清國政府ニ照會シ清國政府ハ之ヲ承諾シナカラ其實行ヲ爲サザリシカ故ニ佛國艦隊ハ福州造船所ヲ砲撃シ臺灣島ノ一部ヲ占領シタルトモ當初佛國公使ハ北京ニ滞在シテ其談判ヲ繼續シ佛國ハ之ヲ戰爭ト看做サザリシカ故ニ多數ノ學者ハ之ヲ報仇トシテ清佛兩國間ノ戰爭ト看做サス但此清佛事件カ戰爭ナリヤ否ヤニ付キテハ學者間ニ議論アル所ニシテ「コベツト」ハ之ヲ戰爭ナリトシ佛國ノ之ヲ戰爭

ニ非スト爲シタルハ斯法上戰爭ノ性質ヲ益々曖昧ニ爲シタルモノト論シタル所ナレトモ少クモ千八百八十四年同事件ノ初期ニ於テハ清佛兩國間ノ平和的國際關係ノ斷絶シタルニ非サルカ故ニ之ヲ戰爭ト爲スコト能ハスシテ千八百八十五年二月ニ於テ英國カ之ヲ戰爭ト看做シタルヨリシテ佛國モ亦之ヲ戰爭ト看做スノ態度ヲ採リタルモノトス加之戰爭ノ開始ニ於テハ平和的國際ノ斷絶スルカ爲メ交戰國雙方カ其外交官ヲ敵國ヨリ召還シ若クハ敵國ノ外交官ニ退去ヲ命スト雖モ外交官ノ退去ハ必スシモ戰爭ノ開始ト爲スコト能ハサルコトアルノミナラス戰爭中外交官カ敵國ニ留リタルノ實例ナキニ非サルカ故ニ戰爭ハ必スシモ外交官ノ任地ヲ引拂フニ於テモ又平和關係ノ斷絶ヲ以テ直接ニ戰爭ト爲スコト能ハサルヲミナラス國家間ノ兵力ノ使用ヲ以テ必スシモ戰爭ト爲スコト能ハスシテ必スヤ國家間ニ平和關係ノ斷絶ト兵力ヲ以テ勝敗ヲ決スルノ二者相待テ始メテ戰爭ト爲ルモノトス

國際公法(戰時) 交戰關係ノ法則 戰爭ノ開始 總論

一決セントスルモノナレトモ斯ル意思ヲ實行スルノ事實ハ交戰者雙方ニ存在

スルヲ必要トスルヤ否ヤ換言セバ其一方ニ於テ戰爭ノ開始ヲ宣言シ他一方ハ其爭鬭ヲ看做サルキヤ之ヲ戰爭ト爲スヘキヤ否ヤハ困難ナル一問題ニ屬シ明治三十三年北清事件ニ於テ清國內地ノ義和團カ山東省及直隸省ノ地方ニ於テ外國人ヲ殺傷シ當初清國政府ハ其團匪ノ勦討及ヒ北京ニ於ケル諸國公使館ノ保護ヲ期シ五月二十九日ニ於テ其上諭ヲ發シタリシカ次ヲ同國ノ廟議カ一變シ六月四日ニハ義和團ヲ忠良ノモノトシテ其勦平ヲ爲サザルコトニ決定シ匪徒ノ勢力カ猖獗ト爲ルニ及ヒ列國軍艦ハ太沽ヨリ水兵ヲ上陸セシメ之ヲ北京ニ送りテ其公使館ヲ保護シ又清國軍隊ハ白河ニ在リタル諸國ノ砲艦ヲ攻撃シ政府ハ諸國公使ニ公文ヲ以テ平和ノ破裂シタル旨ヲ報シ同時ニ其退去ヲ命シタルニ公使ハ途中ノ危險ヲ慮リテ之ヲ拒絕シ六月二十一日清國政府ハ戰爭ノ宣言ヲ發シ聯合軍ハ七月十四日天津ヲ攻落シテ北進シ八月十四日北京ヲ陷落シテ各公使館ヲ擁護セリ此戰鬭ヲ戰爭ト爲スヘキヤ否ヤハ困難ナル問題ニ屬スト雖モ清國政府ノ態度ハ終始一貫セズ七月十八日以後ハ時トシテ公使ヲ保護スルノ態度ヲ採リ八月七日ノ上諭ニ於テハ其爭鬭ヲ清國

地方官ノ措置其當ヲ失シタルニ出テタルモノトシ諸國ニ對スル戰爭ト看做サ
サルコトヲ聲明シ又列國ハ當初ヨリ公使館ヲ救護スルノ自衛行爲ト爲シタル
モノニテ遂ニ清國モ其擾亂ヲ助勢シタル官吏ヲ悉ク犯罪者トシテ處刑シタル
カ故ニ北清事件ノ實質ハ戰爭ナルコト疑ナシト雖モ其關係諸國ハ悉ク之ニ戰
争ノ名義ヲ下サシテ終局シタルニ由リ國際公法ニ於テモ事實ニ反シテ之ヲ
戰爭ナリト謂フヲ得サルカ如シ然レトモ戰爭ヲ開始スルノ意思實行ハ必スシ
モ雙方ニ存在スルヲ要セス其一方ニ於ケル戰爭ヲ爲スノ意思實行ノミニシテ
足ルヘク千八百十三年、エリザベアン號事件ニ於テ英國判事ストークスルハ戰爭ハ
關係國孰レニ於テモ宣戰ナクシテ成立シ得ヘク其一方國カ爲シタル宣戰ハ對手
國ニ於テ之ヲ任意ニ承諾スルカ若クハ拒絕シ得ヘキ單純ナル申込ニ非ス其宣
戰ヲ爲シタル一方ニ取リテハ事實上戰爭ノ成立ナリト判決シタルハ至論ト謂
ハサルヘカラス三十三年、普魯士對フランス戰、普魯士對丹麥戰、普魯士對
戰爭ニ於テ交戰者ト爲ルモノハ必スシモ之ヲ惹起シタル國家間ノミニ止マラ
ス第三國モ交戰國ノ一方兵カ其他ヲ以テ之ニ加擔スルトキハ等シク敵國關

係ニ立ツモノトス斯ル戰爭ノ同盟ハ開戰ニ際シ第三國ノ任意ニ依リテ生スル
コトアリ又戰爭前ヨリ成立スル同盟條約ノ結果ニ出ツルコトアリ戰爭ニ關ス
ル國家間ノ同盟條約ニハ攻擊同盟防禦同盟及ヒ攻守同盟ノ三種アリテ就中防
禦同盟ノ場合ハ其實例夥カラスト雖モ攻擊ノミヲ目的トスル同盟條約ハ最モ
夥ク且他國ヲ故ナクシテ攻擊スルハ國際公法ノ法則ニ反スルカ故ニ斯ル同盟
條約ハ正當ニ效力ヲ有スルモノト看做スヘキモノニ非ス現今伊埃獨三國同盟
露佛同盟及ヒ日英同盟ハ其用語ノ差異アルニ拘ハラズ實質ニ於テハ悉ク攻守
同盟ニ屬シ其各同盟國間ニ於テ其一方國カ一定ノ場合ニ於テ他國ヨリ攻擊ヲ受
ケ又ハ他國ヲ攻擊スルトキハ他ノ一方ハ之ト同時ニ其戰爭ニ從事スルコトヲ
約シタルモノニシテ其條件ハ各條約ノ規定ニ依リ同シカラス日英同盟ニ於テ
ハ我國カ韓國ニ於テ有スル政治上商業上及ヒ工業上ノ格段ナル利益及ヒ日英
兩國カ清國ニ於テ有スル利益ニ關シ之ヲ擁護スルノ必要上同盟國一方カ第三
國ト戰爭スルトキハ他ノ一方ハ嚴正中立ヲ守ルヘシト雖モ其第三國ニ他國カ
加ハリテ戰爭スルトキハ日英兩國ハ共ニ其戰爭ニ從事スヘキコトト爲シタル

モノトス今斯ル戰爭ノ同盟條約カ存在スルトキハ其條約ノ範圍内ニ於ケル戰爭ニ其一國カ從事シタルトキ他ノ同盟國ハ如何ナル場合ニ於テモ之ニ與ミズヘキヤ又其對敵國ハ開戦ト同時ニ斯ル同盟國ヲモ敵國ト看做シテ之ヲ攻撃スヘキモノナリヤト云ハハ必スシモ然ラス何トナレハ總テ同盟條約ハ戰爭ノ正當ナル場合ニ限リテ其態度ヲ共ニスヘキ暗黙ノ條件アルモノト解釋セラレ其戰爭ノ原因カ果シテ正當ノモノナルヤ否ヤハ各同盟國ニ於テ自ラ之ヲ判定シテ自國ノ進退ヲ決スルノ外ナシ此故ニ同盟國ノ一方カ他國ト戰爭ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ一方ハ條約ノ明文ニ從ヒ之ニ應援スルヲ普通トスト雖モ同盟國ナルカ故ニ必スシモ敵國ナリト爲ス能ハサル所以ニシテ其同盟國カ當初ヨリシテ戰爭ノ原因ニ關シ共同ノ態度ヲ採リ來リタル場合ノ外ハ對手國ニ於テハ實際開戦ニ際シテ敵國ト同盟ヲ爲シ居ル國家カ果シテ其同盟條約ニ基キテ戰爭ヲ爲スカ又ハ同盟條約ニ背キテ局外中立ニ立ツヤヲ自ラ決スルヲ見ルヘク其戰爭ニ與スルニ非サレハ之ヲ敵國ト爲スコト能ハス之ニ反シテ同盟條約ノ有無ニ拘ハラズ戰爭ニ於テ敵國ニ與シ戰爭行為ニ助力ヲ爲スモノハ悉ク敵國

ノ地位ニ立ツモノトス又第十九世紀ニ至ルマデハ局外中立ノ一種トシテ不完全中立(Imperfect Neutrality)ナルモノヲ認メ戰爭前ヨリ豫メ條約ヲ以テ一定ノ兵士若クハ金錢其他戰爭ノ資料ヲ交戰國ニ給與スルモ其以外ノ援助ヲ之ニ提供セサル間ハ局外中立タルコトヲ妨ケスト看做サレタリシカ今日ニ於テハ斯ル行為ハ中立義務ノ違反ニシテ對手國ハ其國ヲ敵國ト同一視スルヲ得ヘシ

第二節 開戦ノ方式

戰爭ノ開始ニ於テ交戰國ハ互ニ敵國ニ對シテ戰爭ノ開始ヲ通知スルヲ國際公法上必要ト爲スヤ否ヤニ付テハ學說ノ歧レ來リタル所ニシテ今日ニ於テハ敵國ニ對シテハ其通知ヲ必要ト爲ササルノ說一般ニ行ハルルニ至レリ今實例ニ就テ觀ルニ希臘羅馬ニ於テハ開戦ニ先テ使節ヲ敵國ニ送リテ自國ノ要求ヲ同國ニ提起シ其結果ニ於テ愈々戰爭ト決定スルトキハ其開始ヲ嚴格ナル方式ヲ以テ敵國ニ通告セラレ羅馬ニ於テハ「フェシヤル」法ニ其方式ヲ規定シ「フェシヤル」僧ノ長ヲ使節ト爲シテ對手國ニ派遣シ以テ自國ノ要求ヲ同國ニ爲サシメタル

後三十三日間ニ聽足ナル回答ヲ得サルトキハ同使節ハ其不正ヲ神祇ニ訴ヘ羅馬人ハ之ニ對スル方法ヲ講スルナルヘシトノ一言ヲ遣シテ其國境ヲ去リ之ヲ羅馬ニ復命シ政府ニ於テ開戦ニ決スルトキハ同一使節ハ再ヒ敵國ノ國境ニ至リテ開戦ヲ言渡スト同時ニ手槍ヲ敵國ノ領土内ニ投付ケ之ニ依リテ開戦ト爲リ此方式ヲ終ルマテハ羅馬人ハ決シテ他國ヲ進撃スルコトナク「ヴァタル」ハ此嚴格ナル羅馬ノ開戦ニ關スル方式ヲ評シテ同國カ其後強大ニ赴キタル基礎ナリト云ヘリ又中世騎士制度ノ行ハレタルトキニ於テモ使節ヲ敵國ニ派遣シテ開戦ヲ通告シ通告ナクシテ敵ヲ攻撃スルハ不名譽ト爲シ千三百六十九年佛王「シャルル」五世カ英國ニ開戦ノ使節トシテ宮廷ノ從僕ヲ送りタルハ英國王ニ侮辱ヲ加ヘタルモノト看做サレタリシカ封建制度ノ衰退ト共ニ使節ヲ以テ敵國ニ通告ヲ爲スノ方式モ自ラ廢セラレ千六百三十五年佛王ルイ十三世ノ西班牙國ト開戦ニ當リ使節ヲ「ブルッセル」府ニ派遣シ千六百五十七年瑞典國王カ丁抹國ニ使節ヲ送りタルハ開戦ヲ通告スルニ使節ヲ用ヒタル最後ノ實例トス「クロシェス」ハ開戦ノ通告(Denunciate Bally)ヲ必要ト説キタルニ拘ハラス第十

七世紀ノ戰爭ニハ實際通告ヲ爲サスシテ戰爭ト爲リタル實例少カラズ瑞典王「ガスタヴァス」アドルフ「アス」ハ防禦戰爭ニ於テハ敵國ノ宣言若クハ公然ナル戰爭行為ニ依リ敵國自ラ戰爭ヲ先ツ開始シタルモノナルカ故ニ此場合ニハ敵國ニ對シテ開戦ヲ通告スルノ必要ナシトシ諸國モ之ヲ認メタリト雖モ國家ハ自國ノ尊嚴ヲ維持スル爲メ又ハ其臣民ニ對スル命令トシテ普通斯ル場合ニ於テモ開戦ヲ通告又ハ宣言シ來リ又ウエスト「ファリヤ」媾和條約以後ハ歐洲諸國間ニ公使ノ駐劄カ一般ト爲リタル爲メ通告ヲ爲ス場合ニ於テモ殊ニ使節ヲ派遣セスシテ單ニ其地ニ駐在ノ外交官ヲ以テ之ヲ爲サシメタルコト多ク何等ノ通告ナクシテ開戦シタルトキハ媾和條約ヲ以テ通告前ノ分捕物ヲ返還シタルコトアリシカ第十八世紀ノ初ヨリシテ開戦通告ノ慣習ハ廢セラレ第十九世紀ニ於テモ六十以上ノ戰爭及ヒ報仇アリタルニ拘ラズ第十八世紀以來開戦ヲ通告シテ戰爭ト爲リタルノ實例ハ最モ少ク千八百七十年普佛戰爭ニ於テ佛國カ伯林府ニ於ケル代理公使「ベルンスドルフ」伯ヲシテ開戦ヲ普國政府ニ通告シ千八百七十七年露土戰爭ニ於テ露國政府ハ露都在留ノ土國大使ニ開戦ノ通告ヲ爲シタ

ルハ開戦通告ノ最近ノ實例トス。佛國革命戰爭前百五十年頃ヨリシテ特ニ使節ヲ對手國ニ派遣シテ開戦ノ通告ヲ爲スノ慣例ハ全ク廢レタルト同時ニ交戦國ハ宣戦(Declaration)ヲ爲スノ慣習ヲ生シ又敵國ニ對シ使節ノ特派ト否トニ拘ハラス何等開戦ノ通告ヲ爲スノ必要ナシトスルニ至リタルトキニ於テモ國家力宣言ヲ以テ開戦ノ事實ヲ第三國並ニ自國人民ニ周知セシメ列國ニ對シテハ宣戦ノ原本ヲ送り之ニ依リテ自國カ開戦シタルハ正當ナルコトヲ説明スルコトヲ看做サレ此道理ハ第十八世紀中ニ行ハレ「ヴァテル」モ宣戦ヲ必要ト説ケリ然レトモ之ニ例外ノ戰爭ナキニ非スシテ當時ノ戰爭ニ於テモ宣戦又ハ他ノ宣言(Declaration)ヲ爲スニ先チ開戦シ時トシテハ全ク宣戦ナクシテ戰爭ニ至リタルコトアリ千七百四十七年佛王ルイ十四世ハ宣戦ナクシテ和蘭ニ攻入り千七百五十六年五月及ヒ六月ニ於テ英佛兩國ハ開戦ノ宣言ヲ爲シタルトモ同戰爭ハ二年前ヨリ亞米利加大陸ニ於テ兩國殖民地間ニ開始セラレ居リ又第十九世紀ニ於テモ千八百一十二年英米戰爭ハ米國ノ其港内ニ在ル英國船ヲ拿捕シ加那太ニ軍隊ヲ進メテ戰爭ヲ開始シ千八百五

十四年タリミヤ戰爭ニ於テハ英露兩國ノ大使カ各駐留國ヲ退去スルニ先チ英國海軍ハ開戦ノ訓令ヲ以テ黑海ニ入りタルカ如キ實例少カラズ
國際公法上開戦ヲ敵國ニ對スル通告スルコト若クハ宣戦ヲ爲スヲ必要トスルヤ否ニ付キ有力ナル學者ノ説ヲ見ルニ「グロシュース」「ヴァテル」ヲ始メ第十七世紀及第十八世紀ノ學者並ニ第十九世紀ノ學者中「オートフイユ」「カルヴォー」ハ開戦ハ方式ノ如何ニ拘ラス敵國ニ對シテ通告スルコトヲ必要トシ「ホキートン」「クリューベル」「フイリモル」及「ホール」ノ如キハ開戦ヲ敵國ニ通告スルハ不可ナシト雖モ其通告ヲ爲スヘキコトヲ國家ノ義務トスルコト能ハストシ就中「クリューベル」「トウキス」「フイリモル」等ハ敵國ニ通告スルハ國家ノ義務ニ非サレトモ第三國及自國人民ニ對シ宣戦其他ノ宣言ヲ以テ開戦ヲ公ニスヘキモノトセリ斯ル通告及宣戦ノ必要ト否トニ付キ既ニ實例ニ於テ一定シタル所ナク又學者ノ説モ一定セサルニ拘ラス近世ノ實例ニ於テハ開戦ヲ豫メ敵國ニ通告スル慣習ハ一般ニ廢レ之ヲ爲シテ不可ナシト雖モ列國ノ交通關係カ理學ノ進歩ト共ニ非常ニ迅速且容易ナルニ至リタル今日ニ於テハ戰爭ノ起ラントスルニ際シ當事國

間ニ於テ相互ニ開戦ヲ通告ヲ爲サズトモ之ヲ知了セサルノ理ナク加フルニ平時國家間ニハ外交官ヲ交換のニ派遣駐劄セシメ在リテ戰爭ハ當事國間ニ於テ談判ノ後ニ出テ其談判ニ於テモ列國間ノ國際關係カ複雜ト爲リ來リタルカ爲メ容易ニ戰爭ヲ開始スルコト能ハスシテ其葛藤ヲ平和ニ終局スルノ途カ絶エタルニ於テ甫テ開始スルヲ普通ト爲スカ故ニ斯ル場合ニハ敵國モ開戦ヲ熟知シ居ル所ニ屬シ管ニ之ニ對シテ其通告ノ必要ナキノミナラス偶之ヲ爲スハ敵國ヲシテ戰爭ヲ準備セシムル時間ト機會トヲ與フルニ過キサルニ由リ開戦通告ヲ特派ノ使節ニ依ルト駐劄外交官ヲ以テスルトニ拘ハラズ決シテ之ヲ交戰國ノ義務トスルコト能ハス然レトモ第三國竝ニ自國人民ニ對シテ開戦ヲ周知セシムルカ爲メ宣戰其他ノ宣言ヲ爲スハ今日一般ニ行ハル所ニシテ學者中之ヲ爲スラ必要トセサル者アリト雖モ開戦ト共ニ第三國及ヒ其人民ハ交戰國ニ對シテ又交戰國ノ人民ハ敵國及中立諸國ニ對シテ取引關係上其權利義務ニ大ナル影響ヲ被ルヲ以テ國家カ開戦ノ事實ヲ速ニ發表スルハ管ニ交戰國力有スヘキ德義上ノ責任ナルノミナラス國際公法上ノ義務ト看做サル所トス而

シテ宣戰其他ノ宣言ハ必スシテ戰爭前ニ爲スコトヲ要セズ時トシテ之ヲ爲スノ暇ナクシテ戰爭ヲ開始スルコトアルカ故ニ宣戰ノ有無ニ由リ交戰國間ハ勿論第三國ニ對シテモ戰爭ヲ開始ニ付キ差異アルニ非ス單ニ自國人民及ヒ第三國ノ便益上宣戰其他ヲ以テ成ルヘク速ニ開戦ノ事實ヲ知了セシムヘキモノニシテ若シ開戦ノ前ニ之ヲ爲ササルトキハ戰爭ト爲リタル後速ニ之ヲ公示スヘキモノトス

第三節 開戦ノ時期

戰爭ニ於テハ戰爭開始ノ時期ヲ明確ト爲スノ必要アリ何トナレハ開戦ト同時ニ交戰國間竝ニ交戰國ト中立國トノ間ニ於テ戰時ニ關スル特別ノ權利義務關係ヲ生スルヲ以テナリ凡テ開戦ノ時期ニ關シテハ諸國國法ヲ以テ之ヲ如何ニ定ムルモ全ク其自由ニシテ我國ニ於テモ明治十五年八月第三十七號布告ヲ以テ凡テ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際ニ布告ヲ以テ定ムルモノトシ又憲法第十三條ニ規定ノ本權中モ於テモ戰時ヲ宣シ云云トアリテ國法

ニ於クル戰時ト云ヒ或ハ戰爭ノ時期ト云フハ其各國ノ法律ニ依ルノ外ナシト雖モ國際公法ニ於テ戰時ト云フハ國際公法ノ主體間ニ於ケル戰爭ニ限リ其開始ノ時期ハ交戦國間ニ於テ開戦ノ意思ニ出テタル公然敵意ノ行為アルニ於テスルモノトス隨テ宣戰其他開戦ニ關スル宣言ヲ兵力ヲ交フル以前ニ爲ストキハ其宣戰其他ハ即チ開戦ノ意思ノ表明ニシテ公然敵意ノ行為ト爲スヘキニ由リ少クモ同國ニ取リテハ其發表ヲ以テ直チニ開戦ノ時期ト看ルヘタ又實際兵力ヲ交ヘタル後ニ於テ宣戰アルトキハ其效力ハ以前ニ過リ敵意ノ行為ヲシテ實戰ヲ爲シタル當時ヨリシテ交戦國タル效力ヲ有スルモノトス又斯ル場合ニ於テハ第三國又ハ其人民カ戰爭ト爲リタル事實ヲ知ラスシテ損害ヲ招クコトアルモ所謂天災(Natural Disaster)ニ屬シ國際公法上ノ慣例トシテ之ニ故障ヲ唱フルコト能ハス

近世ノ實例ニ於テ開戦ノ時期ト爲リタルモノヲ舉クレハ千七百九十二年英佛戰爭ハ英國政府ヨリ佛國公使ニ退去ヲ命ジ之ト同時ニ英國公使カ佛國ヲ退去シタルト同時ニ開戦ト爲リ千八百一十二年英佛戰爭ハ米國國會ニ於テ開戦ノ議

決ヲ爲スヤ否ヤ直チニ戰爭ト爲リ千八百三十八年佛墨戰爭ハ佛國艦隊カ墨西哥港ヲ封鎖シタルニ由リテ開始シ千八百四十六年米墨戰爭ハ係爭地ナル「テキサス」州ニ於テ兩國ノ陸軍カ砲火ヲ交ヘタルニ由リ開戦ト爲リ米國政府ハ其報道ニ接シテ開戦ヲ追認シタルニ過キス又千八百五十四年「リミヤ」戰爭ハ英國カ開戦ヲ宣言シテ起リ千八百六十六年普奧戰爭ハ兩國共ニ宣言ヲ以テシ千八百七十年普佛戰爭千八百七十七年露土戰爭ハ通告ニ由リテ開戦ト爲リタルコト前述ノ如シ而シテ日清戰爭開戦ノ時期ニ付テハ議論アリタル所ナレトモ我國カ宣戰ノ詔勅ヲ公ニセラレタルハ明治二十七年八月一日ナリシニ拘ハラズ戰爭ノ行為ハ七月二十五日高陞號ニ於ケル清國兵士ノ發砲ニ對シ浪速艦カ之ヲ砲撃シ遂ニ沈没ニ至ラシメタル當時ヲ以テ開戦ノ時期ト看做スヘク隨テ宣戰ノ詔勅ハ其效力ヲ七月二十五日高陞號ヲ砲撃ノ當時ニ遡ルモノトス之ニ附帶シテ問題ノ生スヘキハ高陞號ト浪速艦ノ兵火ヲ交ヘタルニ至ル迄日清兩國間ニ戰爭ノ關係カ未タ成立セザリシモノナルカ故ニ其當時友誼國タル英國ノ商船ヲ我海軍カ沈没セシメタルハ不法ニ非サルヤ否ヤニ在リ此點ニ就テハ當

時英國ニ於テモ問題ト爲リタル所ナリシカ我海軍ノ行爲ハ決シテ不法ト爲スコト能ハス何トナレハ其數日前既ニ朝鮮國ノ內政改革ニ付キ日清兩國間ニ於ケル平和的談判ハ北京ニ於テ破レ清國ハ新ニ二千名ノ兵士ヲ朝鮮ニ送り我國モ七月二十三日軍艦ヲ派遣シタルニ由リ高陞號ノ轟沈ノ當時マテハ未タ砲火ヲ交フルニ至ラザリシモ兩國間ノ事情ハ開戰ニ迫リ將ニ開戰ニ至ラントスル狀態ニ在リタルヲ以テ高陞號ノ轟沈ハ戰爭開始ニ伴フヘキ必然ノ行爲ニ屬シ固ヨリ清國ニ對シテ適法ノ行爲ナルカ故ニ英國モ之ヲ咎ムル能ハサルノミナラス戰爭中若クハ戰爭ノ將ニ破綻セントスル時機ニ際シ其交戰國ト爲ラントスル一方ニ對シテ兵士ノ運搬其他作戰上ノ便宜ヲ與ヘ居ル者ハ第三國人ナルト否トヲ問ハス其行爲ニ伴フノ結果ヲ免カルルコト能ハス其結果タル損失ハ本人ニ於テ豫期シタルト否トニ關セス又行爲ノ性質ヲ當時詳カニ居リタルト否トヲ問ハス其救済ヲ求ムルノ途ナク其行爲ニ依リ便益ヲ受ケタル國家カ之ヲ賠償スルハ自由ナリト雖モ決シテ對手國ニ向ヒ救済ヲ求ムルコト既ハス何トナレハ高陞號ノ場合ニ徴スルモ斯ル時期ニ際シ偶清國兵士ヲ搭載スル船

舶カ第三國人民ノ所有ナル故ヲ以テ我國ハ之カ爲メ開戰シ能ハス又其船内ノ敵兵ヲ攻撃シ能ハスト爲スヘキ理由ノ存スルコトナキノミナラヌ却テ斯ル場合ニ於テ其攻撃ヲ爲サスシテ我國ニ於ケル作戰上多大ナル損害ヲ忍フヘキ國際公法上ノ義務ナキヲ以テナリ此故ニ同事件ニ於テモ高陞號所有ノ商會ハ英國政府ノ勸告ニ基キ同船舶ノ僱船者タル清國政府ニ對シ損害賠償ヲ求ムルコトト爲レリ之ヲ要スルニ交戰國間ニ於テ戰爭開始ノ時期ハ開戰ノ意思ニ出タル公然敵意ノ行爲アリタル時ニ於テシ其敵意ノ行爲ヲ爲スニ付キ之カ爲メ第三國又ハ其人民ノ損害ヲ被ルモ咎ムヘカラサル場合ハ如何ナル時期ナリヤト云ハハ當事國ノ開戰ニ迫リ未タ兵力ヲ交ヘサルモ實際交戰國タルヘキ態度ニ在ルトキニ限ルモノトス

第四節 開戰ノ直接效果

交戰國間ニ於ケル開戰ノ效果ハ交戰者タル國家間ト局外中立ナル第三國ト交戰國トノ間ニ於ケルモノノ二種アリテ此二種中ニ付キ之ヲ細別セハ前者ニ關

シテハ交戰國政府相互間ニ於ケルモノト交戰國人民間ニ於ケル效果ノ兩種アリ又後者ニ於テモ中立國ト交戰國ノ政府相互間ニ於ケルモノト交戰國ト中立國人民トノ間ニ於ケルモノノ二種アルモノトス然レトモ中立國ニ關スル事項ハ局外中立ノ編中ニ之ヲ説明スヘク本編ニ於テハ交戰國間ノ關係ヲ説明スヘキカ故ニ交戰國政府間及其人民間ニ關スル事項ヲ茲ニ説述スヘク就中本節ニ於テハ其效果トシテ開戦ニ直接必然ナルモノニ止メ戰地ニ於ケル作戰ニ伴フヘキ效果ハ別ニ詳説スヘシ

開戦ト共ニ國家並ニ其國民ハ互ニ敵國及ヒ敵人ノ關係ニ立テ條約其他國家ノ關係並ニ敵國人民及ヒ財産ニ對シテ戰時ニ限リ特別ノ關係ヲ生スルモノトス此點ニ付キ有力ナル一派ノ學說トシテ國際公法ハ素ト國家ト國家トノ關係ノミヲ論シ國際公法上ノ戰爭モ國家間ノ爭鬭ニ止マリ交戰國人民間ノ爭鬭ニ非ストシ人民ノ資格ニ付キ二様ノ見解ヲ下シ一面ニ於テハ國家ニ關係ナク身體財産ヲ有スル一私人ト看做シ他ノ一面ニ於テハ國家ヲ組成スル一員トシテ戰爭ニ當リ其實行ノ資料ヲ給スルカ又ハ直接ニ戰鬭行為ニ助力シ若クハ之ニ使

用セラルルモノト爲シ斯ル戰爭行為ニ關係スル者ノ外ハ其身體財産ハ戰爭ニ無關係ナリトスルニ在リ此説タル「ルース」ノ民約説ニ於テ甫テ唱ヘタル所ニシテ千八百一年佛國捕獲審檢所ノ判事「ボルタリス」氏ノ判決ニ於テ戰爭ハ國家ト國家トノ關係ニシテ箇人ト箇人トノ關係ニ非ス二箇以上ノ交戰國間ニ於テ其國ヲ組成スル私人ハ單ニ一定ノ事情ノ下ニ於テ敵タルニ過キス即チ私人ハ人類ナルカ故ニ敵ニ非ス國民ナルカ故ニ敵ニ非ス單ニ兵士タルカ故ニ敵ナリト説キ「ヘフタル」「ブルンチュリ」「フイアール」等大陸學者ハ此道理ヲ尊信シ之ヲ國際公法ノ原則ノ如ク唱フルモノ少カラス然レトモ此學說ハ一ノ謬説タルヲ免レス何トナレハ若シ此説ヲ正當ト爲ストキハ戰爭ニ於テ國家ハ戰爭ヲ爲スモ普通人民ハ平和ノ關係ヲ有スヘキニ由リ戰鬭員以外ナル敵國人民ノ生命財産並ニ其通商交通ニ對シテハ直接又ハ間接ニ何等戰爭ノ影響ヲ之ニ及ホス能ハスシテ交戰者ハ如何ナル場合ニ於テモ其生活ヲ紊スノ權利ナシト云ハサルヘカラス然レトモ國際公法ノ理論上並ニ列國ノ實行ニ之ヲ徵スルトキハ決シテ然ラスシテ國際公法ニ於テ凡テ國民ハ國家ナル政治的團體ノ一員トシテ

ノ外ハ何等ノ資格ヲ有スル能ハサルニ拘ラズ此學說ハ既ニ國家ニ關係ナキ一私人ト看做スノ點ニ於テ其論據ヲ誤リ又實際軍隊カ敵地ニ侵入スルニ當リテハ其住民ヲ軍隊監督ノ下ニ置き軍隊ノ安全及ヒ成功ニ必要ナル如何ナル行為ヲモ占領地ニ於テ自由ニ之ヲ行ヒ得ヘク敵國ノ城壘ヲ攻撃スルニ當リテハ城中ノ人民ヲ念頭ニ置カスシテ砲撃ヲ行ヒ作戰ノ必要上屢城壘以外ノ民家ニ發砲シ占領地内ニ於ケル普通人民ニ對シテハ徵發及取立金ヲ命シ或ハ人民ヲ驅リ車馬船舶ヲ收メテ軍隊ノ使用ニ供シ鐵道電信運河等ヲ軍事上ニ專用シ其人民ノ職業ヲ案リ交通通商ヲモ杜絶スルヲミナラス地方ノ裁判權ヲモ中止スルカ如キ斯ル行為ハ戰爭ニ直接ノ必要アルモノアリ又必要ナラサルモノアレトモ現行國際公法ニ於テ何レモ之ヲ適法トスル所ニシテ若シ箇人ハ敵人ニ非ストノ道理ヲ正當トセハ斯ル行為ハ決シテ是認スヘカラサルコト疑ナシ加之此學說ヲ正當トキハ海上ニ於テ敵國人民ノ私有ニ係ル船舶及ヒ載貨等ハ之ヲ捕獲スルコト能ハサルヘク更ニ又敵國軍隊カ自國ニ侵入スルトキハ兵船ニ在ラサル人民ハ之ニ反抗スルノ權利ナク其反抗ハ國際公法上ノ犯罪ト看做スヘキ

第二節 應用經濟學

應用經濟學ノ職務ハ社會全般ノ福祉ヲ標準トシテ經濟的現象ノ善惡ヲ判斷シ之ニ應シテ施行スヘキ方策ヲ案出指示スルニ在リ而シテ經濟的現象カ社會全般ノ福祉ニ適合スルヤ否ヤヲ識別セシト欲セハ純正經濟學ノ原理ノミニ準據スルコト能ハス必ズ倫理上ノ原則ニ依リテ之ヲ判定セサルヲ得サルナリ又應用經濟學ハ其目的トスル所實際ニ施行セントスル方策ヲ講究スルニ在ルヲ以テ古今東西ノ事實ニ徴シ其成敗ニ鑑ミサルヘカラス故ニ應用經濟學ハ經濟史及ヒ統計ノ力ヲ藉ルコト甚タ多シトスルニ非ズト雖モ當然之方保護進歩ノ責任ヲ負フモノハ國家ナルカ故ニ社會ニ於ケル經濟的現象ヲシテ社會全般ノ福祉ニ適合セシムル方策ヲ實行スルハ國家當然ノ職務ナリ又國家ノ權力ケリテ始メテ其目的ヲ達スルヲ得ルナリ故ニ應用經濟學ハ實際主トシテ經濟的現象ニ對シテ國家ノ施行スヘキ政策ヲ論究スル學問トス故ニ之ヲ單ニ經濟政策ト

名クル者アリ然ラハ則チ國家ハ社會ニ於ケル經濟的現象ニ對シ如何ナル態度ヲ採ルヘキヤ先ツ之ヲ歐洲ノ歴史ニ徴キテ觀ルニ歐洲ノ經濟的現象ニ對シテ施行セル政策第十七、第十八世紀二百餘年ノ間歐洲諸國ハ經濟的現象ニ對シテ施行セル政策ヲ見ルニ自ラニ主義ヲ貫通スルモノアリ此主義ヲ名ケテ重商主義ト稱ス此主義ハ國家ヲ以テ最上ノ目的ト爲シ國家ヲ以テ萬能ナリト爲シ一國ノ經濟ヲ整理指導スルヲ以テ國家當然ノ職務ト爲セリ是ヲ以テ簡人ノ權利自由ハ毫モ顧慮スル所ナク商業工業ニ對シテ嚴密ナル干涉監督ヲ施シ又種種ノ方法ヲ以テ之ヲ保護獎勵セリ

次テ第十八世紀ノ央ニ至リ佛國ニ重農學派ナルモノ起リ千七百七十六年アダムスミス國富論ヲ著シ第十九世紀ノ初ニ及ヒテスミスヲ祖述スル者英佛等ニ輩出シテ簡人主義ナルモノヲ唱道セリ此主義ハ大ニ簡人ノ權利自由ヲ重シ以爲ク何人ヲ問ハス最モ能ク自己ノ利益ヲ知ル者ハ自己ニシテ社會ニ於ケル簡人各、自己ノ利益ヲ追求スルトキハ自ラ社會全般ノ利益ヲ進歩ス是レ即チ經濟社會ニ於ケル天然ノ法則ニシテ國家ノ干涉ハ徒ニ此法則ノ運動進行ヲ妨害

スルノミナルカ故ニ國家ハ社會ハ安寧ヲ維持スルヲ經濟社會ニ於ケル諸種ノ障害物ヲ排除シテ簡人ノ運動ヲ自由ナラシムルヲ以テ其任務ト爲スベシト而シテ此主義ハ第十九世紀ニ入リ歐洲諸國ノ政策ニ著大ナル影響ヲ及ボセリ

次テ第十九世紀ノ半以後ニ於テ社會主義ヲ主張スル者續出シ其唱フル所ヲ見ルニ曰ク簡人ノ私利ハ社會ノ公益ト必スシモ符合調和スルモノニ非ス而シテ簡人ヲシテ相爭ヒ相競ハシムルトキハ弱者ハ強者ニ壓セラレ貧者益々貧ヲ極メ富者愈々富ヲ重ヌルニ至ル而シテ現今ノ社會ハ到底此弊害ヲ救済スルモノニ非サルカ故ニ根底ヨリ社會ノ組織ヲ改造シテ土地及ヒ資本ヲ國家ノ所有ト爲シ簡人ハ國家ノ命令ヲ奉シテ共同的生産ニ從事シ其產出物ハ國家之ヲ簡人ニ分配スベシト故ニ社會主義ノ理想的國家ニ於テハ國家ハ簡人ノ經濟事業ニ干涉スルニ非ス國家自ラ經濟事業ニ從事スルモノト謂フヘキナリ

以上列舉セル主義ニ就テ先ツ重商主義ヲ論セシニ第十七、第十八世紀ニ當リ歐洲諸國ハ皆此主義ノ政策ヲ施行シ就中計畫宜キヲ得テ大ニ好結果ヲ收メタルハ佛國ルイ第十四世ノ宰相コルベエニシテ其他普國ノフレンチック大王類ニ此

主義ヲ實行シ英國ノ「クロンウエル」ハ彼ノ有名ナル航海條例ヲ厲行シテ以テ和蘭ノ航海權ヲ奪ヘリ然レトモ第十八世紀ニ及ビテハ弊害百出商工業ノ保護獎勵ハ多クハ一私人ヲ富マシタルニ止マリ農業ハ產物輸出禁止ノ爲メニ大ニ困難ニ陥リ而シテ政府ノ監督干涉ハ其處置ヲ誤マルモノ多ク却テ產業ノ發達ヲ害スルニ至レリ之ヲ要スルニ重商主義カ第十七世紀ニ於テ功績ヲ顯ハセルハ人民ノ權利自由未タ全ク發達仲暢セズ封建ノ遺勢尙ホ餘威ヲ逞シクセル當時ノ狀勢ニ適應セルカ故ニシテ到底現今ノ社會ニ應用スヘカラスナルナリ

箇人主義ト社會主義トハ其主張スル所全ク反對スルカ故ニ對照シテ之ヲ論セシニ箇人主義ハ曰ク自己ノ利益ハ自己最モ能ク之ヲ知ルト然レトモ其然ラサル場合決シテ尠カラサルヲ見ルナリ社會主義ハ曰ク箇人ノ私利ハ社會ノ公益ト必スシモ符合調和スルモノニ非スト是レ即チ箇人主義ノ所說ト全ク相反スルモノニシテ社會主義ノ唱スル所理アルカ如シ又箇人主義ハ自由競爭ヲ以テ社會ノ進歩ニ必要ナリトシ社會主義ハ之ヲ以テ弱肉強食ノ慘劇ト爲ヌナリ若シ夫レ競爭ニシテ公平ナランカ其利大ニシテ其害尠キルヘキヲ以テ社會主義

ノ之ヲ排撃スルハ謬レリ然レトモ今日社會ニ於ケル競爭ハ果シテ悉ク公平ナルモノナルヤ疑ナキ能ハサルナリ然ラハ則チ社會主義ノ主張スル所ニ從ヒ土地資本ノ私有制度ヲ廢止センカ人類ノ活動大ニ減退シテ社會ノ進歩ヲ遲緩ナラシムルニ至ルヘキナリ何トナレハ人類勳念ノ最モ強力ナル利己心之カ爲メニ大打撃ヲ被レハナリ又社會主義ヲ實行スルトキハ人類平等ノ理想ニ近クト雖モ人人ノ自由ハ非常ナル制限ヲ被リ活潑ナル運動ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ人人ハ此點ニ於テ一大苦痛ヲ感スルヤ必セリ之ヲ要スルニ社會主義ノ理想的國家ハ到底架空ノ夢想ニ過キスシテ實行ノ期ナキヤ明カナリ然レトモ箇人主義ニ放任スルトキハ種種ノ弊害ヲ生スルコト爭ヘカラスル事實ナルヲ以テ社會一般ノ幸福ヲ保護進歩スルカ爲メニ國家ハ箇人ノ自由權利ヲ尊重スルト共ニ之ヲ制限スルノ必要アリ隨テ國家ノ職務ハ單ニ消極的ニ止マラスシテ又積極的タラサルヘカラス是レ即チ所謂社會改良主義ノ唱スル所ナリ而シテ此兩面ノ職責ヲ盡スカ爲メニ國家ノ施行スヘキ經濟政策ノ重要ナルモノヲ左ニ列舉セン

第一 國家ハ經濟社會ノ便益ヲ計畫進歩セサルヘカラス例ヘハ貨幣制度、度量衡制度ヲ確立シ郵便、電信、鐵道等交通機關ヲ整理スルカ如キ是ナリ又一私人會社ノ企圖シ能ハサル事業ニシテ經濟社會ニ便宜ヲ與フルモノハ國家其術ニ當ラサルヘカラサルナリ

第二 私利、公益相反スル場合ニハ私利ヲ抑制シ公益ヲ保護セサルヘカラス例ヘハ森林法ヲ設ケテ森林ノ濫伐ヲ制スルカ如キ土地收用法ヲ以テ公益ノ爲メニ所有權ヲ制限スルカ如キコト是ナリ

第三 私人ノ企業心未タ振起セサルニ當リテハ國家ハ之ヲ誘導セサルヘカラス例ヘハ明治ノ初年東京橫濱間ノ鐵道ヲ敷設シテ文明的交通機關ノ利益ヲ示セルカ如キ是ナリ

第四 必要ナル場合ニ當リテハ保護獎勵ノ政策ヲ行ハサルヘカラス例ヘハ專賣特許ヲ與フルカ如キ航海獎勵法ヲ設ケルカ如キ輸入稅ヲ以テ内國ノ産業ヲ保護スルカ如キ是ナリ

第五 自然的獨占事業ハ國家自ラ之ヲ經營スルニ非サレハ嚴密ナル監督ヲ施行セサルヘカラス鐵道、郵便、電信ノ如キ給水、瓦斯、電燈事業ノ如キ所謂自然的獨占事業ハ國家若クハ市町村自ラ之ヲ經營スル場合少カラズ自ラ之ヲ經營セサルニ於テハ監督ヲ嚴密ニシテ壟斷專橫ノ弊ヲ防遏セサルヘカラス例ナリ

第六 國家ハ社會ニ於ケル貧弱者ヲ保護セサルヘカラス今日ノ文明國ニ於テハ四民平等ナリト云フト雖モ法律上表面上ノ平等ニシテ實際ニ於テハ必スシモ平等ナラサルナリ故ニ國家ハ貧弱者ヲ保護シテ開化進歩ノ利澤ニ浴セシメサルヘカラス例ヘハ工場法ニ依リテ幼者婦女ノ使用ニ制限ヲ加ヘ以テ其衛生德義ヲ保護スルカ如キ是ナリ

經濟政策ノ主ナルモノハ右ニ述ヘタルカ如シト雖モ保護干涉其度ニ過クルトキハ人民ヲシテ國家ニ依賴スルノ念ヲ増長セシメ商人ノ企業心ト獨立其責ニ當ルノ精神トヲ萎靡セシムルカ故ニ經濟政策施行ノ任ニ當ル者ハ深ク注意スル所ナタンハアルヘカラス而シテ應用經濟學ハ右ニ列舉セルカ如キ經濟政策ヲ純正經濟學ノ原理ニ照シ經濟史及ヒ統計上ノ事實ニ徴シ更ニ倫理上ノ原則ニ準據シテ其可否善惡ヲ論究スト雖モ實際施行ノ程度ト範圍トニ至リテハ國

情ト時勢トニ因リテ異ナルカ故ニ一概ニ之ヲ論スルコト能ハス之ヲ譬フレハ醫學ハ疾病治療ノ手段方法ヲ指示スト雖モ之カ取捨選擇ハ醫師各患者ニ就テ爲ササルヘカラサルカ如キナリ

第三節 財政學

純正經濟學、應用經濟學ノ二科學ト密接ナル關係ヲ有スル財政學ハ主トシテ國家ノ支出及ヒ收入ニ關スル理論及ヒ應用ヲ講究スル科學ニシテ其一部ハ純正經濟學又ハ應用經濟學ト其領域ヲ共ニスト雖モ今ヤ獨立シテ一ノ專門學ト爲レリ經濟學ヲ廣義ニ解スルトキハ財政學モ亦其一部タルヲ疑ナク英米ノ經濟學者ハ「アダム・スミス」以來近時ニ至ルマテ其著書ノ卷末ニ租稅論ヲ載スルモノ多ク財政學ノミヲ講述スル教科書ハ僅ニ二三種ノミトス然レトモ獨逸佛蘭西伊太利等ノ諸國ニ於テハ財政學ヲ一科ノ專門學トシテ教授スルノ慣習ニシテ我國ニ於テモ亦然リ故ニ吾人ノ所謂經濟學ナルモノハ財政學ヲ包括セサルナ

第二編 財貨ノ生産

第一章 生産ノ意義、種類及ヒ要素

第一節 生産ノ意義

地球上ニ存在スル物體ハ其種類ノ多キ枚舉ニ追アラズト雖モ直チニ人ノ消費ニ供シ得ルモノハ多カラサルナリ是ヲ以テ人ハ其有スル無數ノ欲望ヲ満足セシムルカ爲メニ無數ノ財貨ヲ生産スルヲ要ス即チ人ハ自ラ天成ノ物體ニ與テニ欲望ヲ満足スルノ能力ヲ以テセサルヘカラス是レ即チ財貨ノ生産ナリ而シテ生産ト稱スルトキハ無ヨリ有ヲ生スルカ如シト雖モ人ハ物體ノ一分子タモ之ヲ消滅セシムルコト能ハサルト共ニ又其一分子タモ之ヲ創造スルコト能ハサルモノニシテ人ノ爲ス所ハ天成ノ物體ヲ分離シ若クハ集合シ若クハ之ヲ移動スルノミナリ例ヘハ農夫カ米ヲ生産スルハ全ク農夫ノ力ニ出ルルカ如シト雖モ農夫ノ爲ス所ハ或ハ種ヲ播キ或ハ肥料ヲ投スル等ニ過キハ禾苗ノ生長繁茂シテ終ニ果實ヲ結フニ至ルハ植物天賦ノ生長力ト自然界ノ諸力トニ依ル

定ノトス其他樹木ヲ伐ツ材木ト爲シ更ニ之ヲ集メテ家屋ヲ造ルハ天成ノ物
體ヲ分離シテ而シテ更ニ之ヲ集合スルニ過キヌ又石炭ノ如キ礦物ヲ採掘スル
ハ單ニ其居所ヲ移スニ止マルナリ然レトモ財貨ノ效用即チ人ノ欲望ヲ満足セ
シムルノ能力ニ至リタム人ノ創造シ若クハ之ヲ増加シ得ルモノニシテ財貨
ノ生産ハ天成ノ物體ヲシテ效用ヲ生セシメ或ハ其效用ヲ増サシムルノ謂ナ
リ蓋シ財貨ノ效用ハ財貨ニ固著スル天賦ノ性質ニ非ズ人類ニ對スル關係ヨリ
生スルモノニシテ其基礎ハ財貨天賦ノ性質ナリト雖モ財貨ノ性質ト財貨ノ效
用トハ同一物ニ非サルナリ即チ財貨ノ效用ハ同一物ト雖モ人ニ依リ時ニ隨ヒ
又處ニ應シテ差異アルモノニシテ例ハ藥劑ノ如キ病者ニ對シテハ效用大ナ
ルモ健康ナル者ニ對シテハ效用ナキノモノナラシ却テ有害ナルモノアルヘシ一
杯ノ水モ渴シタルトキト然ラサルトキトハ其效用ヲ異ニシ又深山ニ横ハル材
木ト都會ニ輸送セル材木トハ其效用同シカラサルナリ

第二章 生産ノ種類

第一節 生産ノ種類

人ハ如何ナル方法ヲ以テ生産ヲ爲シ得ルヤヲ見ルニ即チ左ノ四種ノ方法ニ依
ルモノトス之ヲ總言スレバ生産ノ種類ヲ分テテ四種トス
第一 天然ニ既ニ存在スル物體ヲ占有スルニ在リ例ハ採掘狩獵漁獵ノ如キ
是ナリ
第二 財貨ヲ生産スルノ目的ヲ以テ自然力ヲ使用スルニ在リテ其生産物ハ植
物若クハ動物ナリトス例ハ農業牧畜業及ヒ森林業ノ如キ是ナリ
第三 以上二種ノ生産ニ因リテ獲得セル原料ヲ用ヒテ或ハ之ヲ變形シ或ハ之
ヲ結合シ以テ財貨ヲ製作スルニ在リ諸種ノ工業即チ是ナリ
第四 以上三種ノ生産事業ニ因リテ生産セラレタル財貨ヲシテ其消費者ニ接
近セシムルニ在リ商業及ヒ運送業等是ナリ商業及ヒ運送業ハ生産の事業ナラ
サルカ如シト雖モ財貨ヲシテ其消費者ニ接近セシメ其效用ヲ増加スルカ故ニ
其生産のタルハ農業工業漁業等ニ異ナラサルナリハ經濟學ノ主眼點ハ自然
力ノ利用ニ在リ

第三節 生産ノ要素

生産ノ種類ハ右ニ述ヘタルカ如ク四種ニ區別スト雖モ人ノ勞働ヲ要シ又自然ノ助ヲ籍ルニ至リテハ一ナリ即チ如何ナル種類ノ生産ト雖モ人ノ勞働之ヲ指導スルアリテ始メテ之ヲ行フヲ得ルナリ又如何ナル種類ノ生産ト雖モ自然ノ助ヲ籍ルニ非サレハ之ヲ行フヲ得サルナリ然レトモ此二者ノミヲ以テスルトキハ生産ハ毫モ進歩發達スルヲ得ス更ニ資本ナルモノヲ要スルモノニシテ尙ホ野蠻草昧ノ境遇ヲ脱セサル民族ト雖モ多少ノ器具ヲ有スルヲ見ルナリ故ニ自然勞働及ヒ資本ヲ生産ノ三要素トハ名クルナリ

第二章 自然

第一節 自然ノ意義及ヒ自然ノ狀況

茲ニ自然ト稱スルハ吾人ヲ包繞スル自然物及ヒ自然力ノ謂ニシテ自然力生産ノ要素タル所以ハ第一ニ生産ニ必要ナル場所ヲ與ヘ第二ニ生産ニ必要ナル材料ヲ供シ第三ニ生産ニ必要ナル勢力ヲ供スルニ在リトス
生産ニ必要ナル場所トハ例ヘバ農業ハ田畝ヲ要シ漁業ハ河海ヲ要シ商業ハ市

場ヲ要スルカ如シ生産ニ必要ナル材料トハ動物界植物界礦物界ニ屬スル物體ニシテ或ハ直接ニ或ハ間接ニ人類ノ欲望ヲ満足セシムルモノヲ謂フ又生産ニ必要ナル勢力トハ自然界ニ存在スル諸種ノ勢力ニシテ例ヘバ植物ノ生長力動物ノ繁殖力土地ノ培養力ノ如キ或ハ動物ノ體力物體ノ重力彈力ノ如キ或ハ風力水力ノ如キ或ハ瓦斯蒸氣ノ膨脹力ノ如キ是ナリ
此等三種ノ要件ハ其ニ生産ニ缺クヘカラサルモノニシテ生産ノ種類ト其盛衰トハ此三種ノ要件ヲ具備スルノ多少厚薄ニ關スルコト實ニ大ナリ而シテ地球上ニ羅列スル數多ノ邦土ハ此三種ノ要件ヲ具備スルニ於テ差等アルヲ免レサルナリ而シテ其然ル所以ハ主トシテ左ニ列記スル諸種ノ狀況ニ基クモノトス
第一 氣候 氣候カ生産ニ至大ノ影響ヲ與フルハ明白ナル事實ニシテ其最モ顯著ナルハ植物ニ對スル關係ニシテ動物ニ對シテモ亦然リトス即チ寒帶溫帶熱帶ハ各鳥獸草木ノ種類ヲ異ニシ隨チ天與ノ材料同シカラサルカ故ニ生産物ノ種類又ハ數量ヲ異ニセサルヲ得サルナリ生産ノ方法モ氣候ノ差異ニ依リテ多少相異ナラサルヲ得ス例ヘバ農業ハ四季ノ長短雨量ノ多少溫熱ノ

高低等々依リテ耕耘收穫ノ時期方法ニ差異ヲ生スルナリ工業ノ如キモ亦氣候ノ影響ヲ被ルコト尠カラス例ヘハ英國ランカシャーヤ細糸紡績ニ於テ紹倫ノ地位ヲ占ムルハ該地ノ空氣カ濕氣ニ富ムコト其主因ナリト云フ人ノ勞働力モ亦氣候ノ異ナルニ隨ヒテ同シカラス嚴寒ト酷暑トハ其ニ之ヲ萎靡衰弱セシムルモノトス

第二 地形 例ヘハ山地平地及ヒ海岸ヲ比較スルニ前述三種ノ要件互ニ相異ナルアリ即チ山地ハ森林業又ハ狩獵ニ適シ平地ハ農業ニ適シ海岸ハ漁業ニ適スルヲ見ルナリ

第三 地質 地質上第一ニ著目スヘキハ土地ノ肥瘠ニシテ農業ノ基礎ハ地味如何ニ在リト謂フモ不可ナキナリ第二ニ注意スヘキハ地中ニ存在スル礦物ニシテ其有無多少ハ一國ニ於ケル生産事業ニ非常ナル影響ヲ及ボスモノトス例ヘハ英國工業ノ發達ハ其大ニ石炭ニ富ムコト一大原因ナリトス

第四 位置 國際交通既ニ開タルニ於テハ各國ノ位置ハ其生産ノ影響ヲ及ボスコト少シトセス荷蘭カ往時繁盛ヲ極メタル英國カ近時商業ノ霸權ヲ握ル

キニ過タルモノト天與ノ材料甚タ尠キモノトハ其ニ生産ノ發達ヲ見サルナリ
蓋シ熱帶地方ニ於テハ樹木繁茂シテ天成ノ食物少カラズ且衣食住ノ欲望自ラ
少ク之ヲ満足セシムルコト亦容易ナルヲ以テ住民多クハ懶惰ニ流レ勤勉ノ念
勞働ノ力ヲ缺クモノトス又寒帶地方ニ於テハ土地礫确寒氣嚴烈ナルカ故ニ勞
働ヲ施スノ機會尠ク人心自ラ萎縮シテ窮乏ニ甘スルニ至ルナリ然ルニ温
帶地方ハ天與ノ材料尠カラズト雖モ採リテ以テ直チニ欲望ヲ満足シ得ルモノ
少ク自ラ勞働ヲ加フルニ必要ヲ生シ以テ人ノ勤勉ヲ鼓舞スルモノトス
我國ニ就テ之ヲ觀ルニ第一氣候ハ概シテ寒嚴其宜キヲ得草木鳥獸ノ種類決シ
テ尠カラズ第二地形ハ島國ニシテ山脈ノ起伏多ク隨テ漁業森林農業一トシ
テ可ナラサルナリ第三地質ハ關シテハ地味概シテ肥沃ニシテ礦物ノ產出ハ敢テ
大ナラズト雖モ石灰ノ如キハ產額決シテ尠キニ非サルナリ第四我國ノ位置タ
ル支那ヲ控ヘ米國ニ隣シ其他南洋諸島濠洲ニ亦敢テ遠キニ非サルカ故ニ國際
貿易上良好ノ位置ヲ占ムルモノト謂フヘキナリ第五水利ニ至リテモ亦優等ニ
シテ殊ニ沿岸ノ屈曲多クシテ港灣ニ富ムコト稀ニ見ル所ナリ是ヲ以テ我國ハ

雜 報

○民法第六十九條ノ適用 民法第六十九條ノ解釋ニ付テハ往往誤解ス
ル者アルカ本條ニ就キ大審院ノ探ヒル解釋ヲ示スニ曰ク民法第六十九條
ニ所謂年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル金錢其他ノ給付ヲ目的トスル債
權トハ原判決ニテ解釋スル如ク利息借貸料等ノ如キ毎時期ニ支拂フ可キ債
權ヲ指稱スルモノニシテ本件ノ如キ借用金自體ニ適用ス可キ規定ニアラスト
(大審院明治三十六年六月二十六日第二民事部判決) 又民法第六十九條ノ適用ニ關シテ
○民法第二百七十條ニ所謂耕作ノ意義 民法第二百七十條ニ所謂耕作トハ
如何ナル意義ヲ有スルカニ付キ大審院ハ頗ル廣ク解釋シテ曰ク民法第二百七
十條ニハ永小作ハ小作料ヲ拂ヒ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲ爲ス權利ヲ有ス
トアリテ此ニ所謂耕作ナルモノハ植物ヲ栽培スル爲メ土地ニ人工ヲ施スコト
ヲ云フモノナリ而シテ原裁判所ハ本件第三號證人規約ノ文詞ヲ解釋シテ單
ニ自然ニ發生スル草木ヲ刈取ルニ過キサルノ意ニアラスシテ或ハ惡草ヲ

蘇等ヲ芟除シ或ハ播種其他ノ方法ヲ以テ良草ヲ繁茂セシムル等人工ヲ施シ以テ更ニ良草ヲ刈取ル爲メ被上告人ハ本訴山林ヲ使用スルヲ得ルモノナルコトヲ約シタルモノニシテ所謂耕作ト認メ得ルモノナリ此事實ニ依レハ被上告人ノ使用ノ權利ハ惡草荆棘等ヲ芟除シ播種其他ノ方法等即チ土地ニ人工ヲ施シテ良草ヲ繁茂セシムルニ在ルモノナレハ前掲第二百七十條永小作タルノ定義ニ恰當シタル權利ト云ハサル可カラス上告人ハ田畑トシテ植物ヲ培養スルモノニアラザレハ耕作ト稱シ得可カラサルモノノ如ク論スルモ從前ノ如ク草山ヲ其儘ニ爲シ置キ人工即チ耕作ヲ施シ良草ヲ播種シ肥料ヲ收ムルコトハ田畑ニ人工即チ耕作ヲ施シ他ノ果實ヲ收ムルト敢テ異ナル所ナシト(大審院明治三十九年七月十六日永小作權無效訴訟第二民事部判決)其由ニ依リ田畑ノ耕作ノ性質ハモノナルカ隨テ如何ナル效力ヲ生ズルカニ付キ大審院ハ說明シテ曰ク民法第四百二十三條ニ債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得トアルハ債務者ニ於テ第三債務者ニ對シ或權利ヲ有ス

ル場合ニ債權者カ債務者ニ代ハリ其地位ニ立テテ第三債務者ニ係リ債務者ノ有スル權利ヲ行フ迄ノモノニ過キス故ニ本條ヲ適用トシヤテ例ヘハ債權者ニ於テ其債務者ニ代ハリ第三債務者ニ係リ提起シタル訴訟カ給付ヲ請求ナルトキハ其訴訟ノ目的物ヲ直ニ原告タル債權者ノ財産中ニ歸屬セシムルコトヲ得ルニ非スシテ先ツ之ヲ債務者ノ財産中ニ入レ而シテ債務者ニ對スル他ノ債權者アラハ其財産ハ總債權者ノ共同擔保ト爲ス可ク之ニ反シ他ノ債權者ナキトキハ債權者ハ債務者ノ財産ヲ入レタルモノヲ以テ自己ノ債權ヲ辦済トシテ債務者ヨリ之ヲ受取ルコトヲ得可キモノトス若シ上告人所論ノ如ク此場合ニ於テ債權者カ其訴訟ノ目的物ヲ被告タル第三債務者ヨリ直接ニ受取ルコトヲ得ルモノトスルトキハ債務者ヨリ其債權者ニ任意上若クハ裁判上權利ヲ移轉セシメタルコトナキニ拘ハラズ債權者ハ其債務者ニ屬スル權利ヲ讓受ケタルトキト殆ント同一ノ結果ヲ生シ全ク直接ニ權義ノ關係ナキ第三債務者ヲシテ債權者ニ對シ義務ヲ盡サシムルカ如キ奇觀ヲ呈スルニ至ルト(大審院明治三十九年七月十六日第二民事部判決)二十條ヨリ本對第二編第三章第三十六

○討論會 去月二十四日午後六時三十分ヨリ本校第二講堂ニ於テ左ノ問題ニ就キ第二回討論會ヲ開キタリ

法人ハ行為能力及不法行為能力ヲ有スルヤ關シテ第三回討論會ニ於テ議論三派ニ岐レ、極論者ハ法人ハ法律ニ擬制ニ依リ成立スルモノニ非シテ自然的ニ存在スルモノナリ、理事其他ノ役員ハ法人ノ機關ニシテ代理人ニ非ス故ニ此等ノ者ノ表彰スル意思ハ法人ノ意思タリ、隨テ法人ハ意思ノ發動タル行為不行爲ノ能力ヲ有スルヤ明カナリト主張シ、消極論者ハ法人ハ法律ノ擬制ニ由リテ成立スルモノナルヲ故ニ意思能力ヲ有セズ故ニ意思ヲ要素トスル行為不行爲ノ能力ヲ有セズ、所ヤ論ナシ、理事其他ノ役員ハ法人ノ機關ニ非シテ法定代理人ナルロト、法文ノ各條ニ徴シテ明カナリト駁シ、折衷論者ハ法人ハ法律ノ規定セル目的ノ範圍内ニ於テノミ存在スルモノナルカ故ニ其目的ノ範圍内ニ於テ不行爲能力ヲ有セシト雖モ不法行為ノ如キニ要リテハ其目的ノ範圍外タルヲ以テ固ヨリ其能力ヲ有スヘキモノニ非スト、論シ最後ニ會長松本學士ノ論評アリテ同十時散會シタリ

● 學生募集

○專門部 正科生、別科生共缺員アリ臨時入學ヲ許ス

○高等研究科 十一月四日新學年授業開始ス入學志望者ハ至急申出ツヘシ

○聽講生 聽講生ハ隨時入學ヲ許ス

○特別試驗各及ヒ編入試驗 二年級 十一月十一日ヨリ施行ス、志願者ハ前日マテニ申出ツヘシ

○校外生

三十七年度講義錄ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年共十月ヨリ毎月三回發行滿一箇年ヲ以テ完結ス月謝金ハ各學年共金五十錢但官公衛在職者(證明書ヲ要ス)及ヒ校友ノ紹介アル者ハ金四十五錢トス總テ入學金ヲ要セス、入學志願者ハ至急申込ムヘシ

十一月

司法部指定
文部省認定

私立 法政大學

校外生規則摘要

- 一 講義錄ノ種別及發行期日ハ左ノ如シ
 - 第一學年講義錄 毎月一日 十一日 二十一日
 - 第二學年講義錄 同 五日 十五日 二十五日
 - 第三學年講義錄 同 八日 十八日 二十八日
- 一 校外生ハ本大學講義會及討論會ニ出席傍聴スルコトヲ得又本大學ノ出版ニ係ル書籍及雜誌類ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 一年以上引續キ本大學ノ校外生タル者ニシテ本大學ニ入學スル者ハ入學金ヲ免除ス
- 一 在學中ニ宿所ヲ轉シ又ハ氏名ヲ改メタルトキハ直チニ新舊ノ宿所氏名ヲ詳報スヘシ
- 一 日謝金ハ各學年金五拾錢トス毎月末日迄ニ翌月分ヲ前納スヘシ但數月分ヲ前納スルモ妨ナシ
- 一 郵便爲替ヲ以テ月謝金ヲ納付スルトキハ飯田町郵便局拂本大學會計局宛ニテ送付スヘシ
- 一 (若シ郵便切手ヲ以テ納付スルトキハ必ス壹錢切手ニテ一割増トス)
- 一 質疑ハ講義錄ニ掲載スルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得質疑信書ニハ講義錄ノ當號科目頁數及疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載シ相當郵券ヲ添ヘテ本大學編輯局宛ニテ送付スヘシ

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
(毎月九回一日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行)

明治三十六年十月卅一日印刷
明治三十六年十一月一日發行
(定價金貳拾錢)

編輯兼
發行者 萩原敬之
東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者 小宮山信好
東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 金子活版所
東京市芝區西ノ久保町十一番地

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省
指定 法政大學

(電話番町百七十四番)